

# 参加者印象記



このようなワークショップに参加するのは初めてだったのですが、どの参加者も問題意識が強く、自分には無い新しい考え方や視点に接することができ、非常にいい刺激を得ることができました。

ワークショップの中で様々な意見が出ましたが、その中でも特に私が重要だと思ったもののひとつが「他学部との交流」という意見です。私の大学は薬学部のみ単科大学になるのですが、5年生になって臨床導入実習に出るまで他職種と関わるという機会がほとんどなく、薬剤師に求められていることや社会に出るために今の自分に不足していることなど実習に出てから気づかされることが多くあります。実習以外にもこうしたワークショップや大学独自の講義・実習などの機会を通して他学部・他職種との交流が早い段階からあればさらに薬学部の学生としてのモチベーションがあがり、6年制の意義もより深まるのではないかと思います。

薬学6年制もまだ始まったばかりで見直すべき点も多いとは思いますが同時に、今までの薬剤師にない経験、たとえば研究室で学んだ知識や技術、臨床導入実習から自分に足りないと感じたことや問題に感じたことなどもたくさんあり、こうした経験を忘れることなく、社会や後輩達に還元していけるような薬剤師になりたいと思います。

この度は第2回全国学生ワークショップに参加させて頂き、本当に感謝しています。全体を通し、参加者の学生は立派な意見と考えを持ち、それを発信する力のある素晴らしい方々だったと感じています。このWSは単に「楽しかった」では終わらない、奥深い内容であり、自分の視野の狭さ、考えの浅さを改めて自覚しました。また同時に、“第2期生”という責任を二点、感じました。

一つ目は、学生の責任です。「薬学教育に求めること」とは、自分の力では不可能なことに、教育という大きな力を借りることだと考えています。しかし私たちはまだ、すべてを教育、制度に頼っているような、受け身な姿勢もあるように感じました。6年制教育はまだ始まったばかりで、不完全な点もあると思いますが、その全てを制度に頼るのではなく、学生も積極的に参加し、自分で努力し、その穴を埋めていくべきだと、痛感いたしました。

そしてもう一つは、6年制になったことで、薬学部の可能性が深く広がったかどうかは、私たちの今後の働き次第であることです。「2年増えても何も変わっていない」と判断するのは我々ではなく、社会です。それを自覚して社会に出ていきたいし、皆さんにも、そして後輩にもそうであってほしいと感じました。

第二回全国学生ワークショップで印象に残っているのは、参加者に薬剤師以外の道に進む人が多くいたことです。薬局・病院以外の、製薬企業や省庁等に進む人々も6年制教育について関心を持ってワー

クショップに参加したことで、参加者の視野が広がり、また議論の幅も広がったと思います。

また、単科・総合、私立・国公立、都市・地方等のあらゆる薬学部生が集まったことで、私の大学では想像出来ないような取り組みが行われていることを知りました。例えば、実務実習を一足早い期間（0期）に行うことで実習・就職活動・研究の全てを充実させることの出来る制度は、学生の就職の選択肢が増え、薬学の職域を広げる上で効果的だと感じました。他大学の様々な取り組みを知ることが出来たのは、私にとってとても貴重なことであり、このような機会が多くに巡ってくることを期待したいです。

最後に、第二回全国学生ワークショップを開催し、貴重な経験をさせていただいた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

グループ IA班                      氏名 原田 愛

今回行われたワークショップで他大学の学生と議論し、同じような悩み・考えの他、自分が今まで考えていなかったような意見も聞くことができ、大変ためになった。加えて全員の意識の高さも実感し、とてもよい刺激になった。

今回は去年とは違い、懇親会の場を設けたということであるが、そこで他のグループの学生や第1期生の方々と触れ合う機会があったことも良かった。他大学との違いが分かったこともおもしろかった。しかし、欲を言えば全体的にもっと時間があればありがたかった。

第五部や総合討論では、後輩に対するフィードバックが大切であるという意見が出た。今までは自分が就職した場所で薬剤師として役に立つことを中心に考えていたが、それだけではなく、これからの薬学部生や薬学教育にとっても役に立つ存在になりたいと思うようになった。社会に出て何らかの形で4年制との違いや良さを示すことも、私達に与えられた重要な課題の一つである。

薬学教育について学生間で真剣に考え議論する機会はなかなかないのでためになったし、この機会に素晴らしい仲間ができたことを嬉しく思う。このワークショップに参加できて本当に良かった。

グループ IA                                      氏名 平良木 由布

私にとってこの二日間は、自分の視野の狭さと固定概念に気づかされた二日間でした。新潟薬科大学は卒業生の大多数が薬局、病院などの臨床の場に出ます。そのため、私はいつの間にか、臨床現場でチーム医療に参加し、患者さんへの薬物療法に携わることが薬剤師のすべてであると考えていました。しかし、今回のワークショップで出会った方々の進路は様々で、病院、薬局、ドラッグストアはもちろん、開発や研究、MRなど、今まで考えたこともなかった薬剤師のあり方を教わりました。現在、「チーム治療」「連携」といった言葉が盛んに叫ばれていますが、それは他職種間だけでなく、薬剤師間でも言えるということを改めて感じました。薬剤師の中でも立場によって価値観、主張が異なり、お互いに刺激を与え合うことができるのだと、薬剤師の可能性をまた一つ知ることができました。

また、班のメンバーをはじめ、多くの友人を作ることでできた二日間でもありました。この繋がりを大切に、自分の理想の薬剤師像に近づくために今後も日々精進していきたいと考えています。

本学生ワークショップは、薬学生の充実した教育制度を作るための討論会と説明されていたので参加するのに少し抵抗がありました。それは、薬学生のための教育と聞くと、将来薬剤師として働く人のためだけの教育というイメージを受けてしまい、MR 職の道を選んだ私は、積極的に議論に参加できる自信がなかったからです。しかし、参加してみると IA 班には、MR 職、研究職、開発職、臨床薬剤師など希望職種がまちまちのメンバーがいて安心しました。異なる職種の人々が集まったことで、薬剤師になる為の専門学校的な教育制度ではなく、将来薬剤師として働かない学生にとってもプラスになることを考慮して熱く語り合うことができました。このようなワークショップに初めて参加して、人それぞれの視点の違いを感じ、成績、年齢、学歴などに関係なく対等に人と議論する大切さを学びました。また、転勤の多い MR としては、全国各地に友達ができたことも嬉しく思っています。今後も、このような機会があれば、積極的に参加していきたいと思えます。

最後になりましたが、貴重な経験の場を設けて頂いた本ワークショップ関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

私にとってこの 2 日間は、本当に収穫の多いものでした。今まで他大学の仲間とこんなに楽しく且つ真剣に意見を交わす場がなかったので、それがとても新鮮で、良い意味で自分の考えを崩されたように思います。参加した仲間達からたくさんの刺激を受け、自分の考えの狭さを思い知ることとなりました。私は、この WS で得た多くのことを自分一人のものにするのではなく、大学の仲間や後輩に是非とも伝えたいと思いました。また、KJ 法や World Cafe を用いたグループワークでは、情報を整理する方法を学ぶとともにグループ以外の仲間とも多くの意見を交わすことで、新たな考え方を吸収することが出来ました。2 日間ですべて 5 回の討論を通して、最終的には参加した全員が「6 年制薬学教育を意義あるものにした」という一つの想いにまとまったように感じました。

一期生の卒業後のメッセージでは、仕事を通して実際に感じた 6 年制と 4 年制の違いを聞くことができ、現在就職活動中の私には非常に心に響くものがありました。卒業生や他大学の仲間との交流は、6 年制薬学教育に留まらず、社会全体の薬学に対する地位を上げるためにも必要であり、今後も開催されることを願っています。

薬学生として過ごす時間が残りわずかとなった今、これまでの 6 年間で振り返る機会をいただいたことで、自分が大学へ入学してから何を感じてきたのかを見つめ直すことができました。

2 日間を通して一番印象に残ったことは、第 5 部の『今後の 6 年制薬学教育に望むこと』というテーマで IC 班の発表者が言った「薬学部は薬剤師になるための専門学校ではない」という言葉です。6 年制の薬学部を卒業した学生は薬剤師として医療現場で活躍するだけではなく、大学院でさらに学びを深めたり、企業で研究に携わったり、公務員として保健所などで地域に貢献したりとさまざまな道に進むこと



ができます。ですが全 5 回の討論を通して、現在の薬学部の教育は医療の現場で薬の専門家としての役割を果たすことができる薬剤師を育てることに偏りがちになっているのではないかと強く感じました。広い視野で学生一人一人が自らの進む道を選ぶことができるようになれば、薬剤師という職種そのものの可能性も今後さらに広がっていくと思います。

最後になりましたが、今回このような貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

グループ IB 氏名 金子未奈

今回のワークショップに参加させて頂き、6年制薬学教育について、全国から集まった士気の高い仲間たちと語り合えたことは、私にとって貴重な財産となりました。

現在の臨床現場ではチーム医療が推進されています。しかし、私の実習先ではそれぞれの職種が各々の業務に誇りを持って取り組んでいましたが、1つのチームとしては機能していなかったように感じました。

先進的な患者さんの治療に貢献していくためには、各職能を最大限発揮したチーム医療が必要とされることは言うまでもありません。そのためにはお互いの職種の強みと弱みを理解することから始めなければなりません。

ワークショップを通じて、他大学では医学部や看護学部などと症例解析を行っていると知りました。このように学生のうちから他学部と交流し、お互いの特徴を知る『チーム医療の基盤作り』が必要であると感じました。私はこのような取り組みが医療系大学全体でスタンダードとなる日が来ることを期待しています。

グループ IB 氏名 志田 拓顕

6年制薬学教育は何を目指すべきなのだろうか。私たちは大学で身に付けた知識や技術を土台とし、そこに社会に出てからの経験を上積みして成長していくが、6年制になって伸びた2年間で、従来社会に出てから獲得されていた「上積み」を肩代わりするためだけに使われるのなら意味がない。例えば、大学で単に臨床に直結する力だけを伸ばすなら、従来のように4年間で卒業し、その分早く現場に出た方が良いはずだ。

私は、6年制に求められているのは、土台の「裾野」を広げることだと思う。例えば、臨床現場で働く予定の者にも基礎研究について十分教育したり、逆に基礎研究や行政を志す者にも臨床現場を十分理解してもらったりして、大きい土台を築くことが重要ではないか。このような人材は卒後の即戦力にはならないかもしれないが、成長の伸びしろは大きいはずだ。(私たちがそれを証明しなければならない。)

ワークショップのメンバーからはこの考えに賛成意見も反対意見ももらったが、このような率直な意見交換ができたことを幸せに思う。

最後になりましたが、運営委員の皆様、タスクフォースの皆様、一緒に議論した仲間たち、ワークショップに携わってくださった全ての方に厚く御礼申し上げます。

初めて会う他大学の学生ときごちなく始まるのかと思いきや、すぐに打ち解けて会話も弾み、様々な議論が展開される中で多くの学生と意見を交換し交流することができました。

私がこのワークショップで印象に残っていることは、学生ひとり一人の意識が高かったことです。それぞれが6年制薬学部で学ぶ意義や将来についてしっかりとした意見を持っており、力強い発言に圧倒される場面が多く出会い、いい刺激になりました。また最終討論での「ベースを広げるか上積みを実践させるか」といった意見ではほとんどの学生がベースを広げたいと考えていたことも印象的でした。私はベースが広がれば上も広がり様々な分野で活躍できる「+αをもつ薬剤師」が増えるのではないかと考えおり、足された2年間で国家試験のためだけにならないことを望んでいます。

今回のワークショップで問題提起を行うだけでなく、自ら行動を起こすことの重要性和、6年制薬学教育を意義あるものにしていくために、これからの自分の行動や態度に自覚を持つことの必要性を学ぶことができ、大変有意義な時間を過ごせたことに感謝しています。

今回、このワークショップに参加させていただき、今まで感じていた不安が少し軽くなりました。というのも、今まで他大学との交流がほとんどなかったため、他大学の薬学生がどんな教育を受けているのか、どう感じているのか知ることがなかったからです。しかし、全国の学生と討議を行い、6年制薬学教育に関する様々な考えを聞くことで、自分では思いつかなかった新しい考えが聞け、また似たような悩みを共有することができ、今まで感じていた不安などは、私の大学だからではなく、どこの大学でも同じように感じているのだと知ることができました。さらに、情報交換会では1期生の先輩とも話す機会があり、勉強方法に関するアドバイスもいただきました。今回知り合った同期となる全国の学生は志がとても高く、たくさん刺激を受けることができました。このような貴重な経験ができたのも、今回このワークショップを主催してくださった先生方、声をかけていただいた先生方のおかげだと思います。本当にありがとうございました。ここで終わらせることなく、これからも縦にも横にも交流を続けていけたらな、と思いました。

この度は、貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。

全国の薬学生と知り合う機会はなかなかないと思いますし、皆さんの様々な意見を聞くことができ、とても刺激になりました。今回私が感じたことは、やはり学校間で授業や実務実習にかなりの差があるということです。差があることは特色があるということなので、必ずしも悪いとは思いませんが、人生が決まる就職活動に影響を与えることもあると感じましたので、やはり基礎の部分は統一していただきたいと思いました。中でも、薬学部が専門学校化しているという意見がありましたが、彼女の話の聞いているとき、就職活動で苦しんでいる全国の学生のやりきれない想いを代弁していただいているような気分になりました。

最後に、6年制になった薬学部がこれからより良いものになっていくために、学生の意見を取り入れてくださる場があることは非常にありがたいことだと感じましたし、実際に今回の話し合いが変革につながることを期待しております。是非、今後もこのような取り組みを続けて欲しいと思います。

グループ IB班 氏名 星野 祐太

今回、日本薬学会第2回全国学生ワークショップに参加し、他大学の同期の学生と交流することができ大変良い刺激を受けた。

グループでのディスカッションでは、一つ一つのテーマについての時間は短かったのだが、一人ひとりテーマに対する視点が異なっており、それぞれが様々な意見を言い合えた。短い時間の中で、熱くそして内容の濃い議論を行うことができたのではないかと思う。また、経験したことのないKJ法やWorld Caféなどの方法で行ったということもあり、新鮮で楽しくできよかった。

そのようなディスカッションの中で他大学の特徴や他大学の学生も同じような意見や悩みを持っているということを知ることができた。これは、このワークショップの中で最も大きな収穫だったと思う。全国の同期の学生が、さらに6年制薬学教育をよりよいものにしていきたいと考えているということにうれしさを感じた。将来の向かうところは異なると思うが、同じ志を持ってお互いに切磋琢磨し成長しあえるような仲間ができよかった。大変充実した2日間を送ることができた。

グループ IB 氏名 安田 聖古

今回二日間にわたり、他大学の学生の方たちとお話しできたことは、大変よい刺激になりました。皆とても意識が高く、薬学教育のあり方や6年制を盛り上げるために自分になにができるかを真剣に考えていました。

話し合いのなかで様々な意見に触れ、今まで考え付かなかったような新鮮な意見にはっとしたり、多くの学生が共通して感じていることもあると再認識したりと、視野が広がるのを実感できました。

その中で特に強く感じたことは、発信していくことの大切さです。今回のワークショップを通して、様々な活動に参加され、その内容を社会に伝える行動を起こしている人の存在を多く知ることができました。6年制教育を意義あるものにするためにも、発信していくことは必要不可欠です。私自身も、今後社会に出て働くとき、そうした機会を逃さず少しでも貢献できたらと思います。

ワークショップを通して知り合えた人たちとのつながりを大切にしながら、今回学んだことを生かして社会に貢献できるような薬剤師になりたいと思います。

このような貴重な機会を与えてくださり、心よりお礼申し上げます。

「医療の担い手」の一員として薬剤師が明記されるようになったのはごく最近のことなのだと以前、大学の授業で学習し、昔から薬剤師という職業は存在していたはずなのに、世間一般の目はそんなものなのかと落胆したことがあります。

6年制の意味について同じ大学の友達や先生と話をしたことはありましたが、今回のワークショップに参加して私はまだまだ井の中の蛙であったなと感じることがたくさんありました。また、大海とまではいきませんが少しだけ、海を見られたような気がします。

私はこれから大学に残り研究の道に進みます。学部生を指導することの多い立場に立つのでこれから薬剤師になっていく、そんな下級生たちに今回の経験を活かし接していけたらいいなと思います。

最後になりましたがこのような貴重な場に参加させていただきありがとうございました。またみなさんと熱い議論ができる日を楽しみにこれからも頑張っていきます！！

第2回全国学生ワークショップは、これからの薬剤師になる私にとって、とても貴重な体験となりました。薬学教育をより良くしようと、このようなワークショップを開催してくださった皆様に心よりお礼申し上げます。

全国の仲間達と一緒に考え、意見を出し合う作業は、とても刺激的で、大変有意義なものになりました。普段の学生生活の中では、決して気づけない問題意識を共有することで、私自身の価値観が変わったと感じています。

私が、6年制薬学教育に望むことは、自分の将来のことについて深く考え、行動に移せる機会を与えて欲しいということです。何のために薬剤師になるのか、薬剤師になって何がしたいのか、6年制の早い時期から意識させることで、今何をしなければいけないのかをより考えるキッカケになると思います。

今回のワークショップを通して、たくさんの繋がりを築くことができました。今後もこの連携を深め、共に薬剤師として活躍していきたいです。今が薬学教育の過渡期であり、未来をより良いものにするために、私たちが果たす役割は重要です。だからこそ、先ずは私たち自身が一步踏み出し、6年制薬剤師が意味のある存在であることを証明していきたいです。

国家試験のことしか考えていなかった私にとって、ワークショップ(WS)に参加できたことは、とてもいい刺激となりました。全国の薬学生と意見・情報を交換する機会は私にとって初めてのことで、こんな意見もあるのかと、勉強になった2日間でした。

私の大学は私立で新設ということもあって、最終的な目標は国家試験の合格です。もちろんそれでもいいのかもしれませんが、どこか物足りなさを感じていたのも事実です。だからこそ、WSに参加し、まったく違った環境で薬学教育を受けてきて、考え方・価値観などが違う人たちと、これからの薬剤師の



在り方、卒業後の取り組みなどについて、議論し活発に意見を交わすことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

WS 全体の議論を通して薬剤師の活躍の場は幅広くあるということを改めて感じました。しかし多くの学生は、それを知らずに過ごしているのではないかと思います。WS での内容は、後輩たちはもちろん、大学の先生方、高校生などたくさんの方に知っていただいて、薬剤師という職業の魅力を感じて欲しいです。

最後に、このような貴重な機会をくださった関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

グループ IC 氏名 坂本 歩美

私は今回のワークショップの話を教授から頂いたとき、率直に参加してみたいと思いました。全国の薬学部の学生が来るということで、全国的に見た自分の大学の環境というものを客観的に見てみたいと思ったことが、私が参加しようと思った主な理由でした。

実際に参加してみて、想像以上に密度の濃い時間を過ごせたと感じています。他大学の皆さんの話はとても刺激になりました。またワークショップでディスカッションする課題も非常に興味深い内容であり、ここに参加している皆さんの意識の高さというものを肌で感じることができました。それと同時に、私ももっと向上していかなければならないと痛感しました。

私はこのワークショップに参加させていただき、同じ志を持つ仲間と出会うことを通じてたくさんのことを得ることができました。第二回全国学生ワークショップのメンバーと過ごした二日間というのは、これから薬剤師として仕事をしていく上で大きな糧となります。薬学部の、そして医療の未来を動かしていく同志であるこのメンバーとの交流を、これからも大切にしていきたいです。

グループ IC 氏名 相良 篤信

日本薬学会第 2 回全国学生ワークショップに参加させていただきありがとうございました。全国の薬学生が班ごとに「6 年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」について熱い討論が行われ、とても貴重な経験をすることができました。

その中で多くの活発な意見が出され、国公立・私立、総合・単科大学における各大学の共通点や相違点を学生同士で共有することができました。各大学が同様のカリキュラムで学んでいても、それぞれに特徴があることをお互い認識することでより良い討論が行えたと感じました。そこから様々な問題点を抽出し、6 年制薬学教育または卒業後に何が必要なのかを多分に考えさせられました。また意識の高い人が多く、薬学教育を真剣に考え、さらに卒業後に対するビジョンをしっかりと持っていることが印象的でした。積極的に発言しながらも他大学の意見を尊重することで、非常にまとまりのある素晴らしい発表ができたと感じました。

討論後に各班の意見をスライド発表して全体討論が行われ、その時間が短かったことは残念でしたが、全体討論で薬学教育に対して提言されたことは薬学生が 6 年間を通じて感じたことであり、その内容が

カリキュラム等に反映されれば、より良い薬学教育が行われると感じました。

最後に貴重な機会を与えて下さった日本薬学会の先生方並びに派遣して下さった本学の先生方に深く御礼申し上げます。

グループ IC 氏名 宗本 哲也

私は、今回のワークショップで全国の薬学生の意識の高さに驚き、また自分自身もっと意識を高くして学生生活を送っていかねばならないと思いました。今回集まったメンバーは、どの人と話をしても自分の将来像をしっかりと持って、病院、薬局、メーカー、大学院進学など進む道は違えど自分が将来医療現場に何が出来るかを常に考え、薬学生として誇りを持って学生生活を送っている人ばかりでした。私自身も自分の将来についてしっかりと考えて生活しているつもりでしたが、自分の考えの甘さに気づかされ、改めて学生の中にまたゆっくりと自分自身と向き合ってみようと思いました。そして、自分には何が出来て、何が出来ないのかを明確にし、卒業後も日々学んでいきたいと考えています。まずは、MRとして医薬品の安定供給、医師が安心して使用できるような情報提供を心がけて働いていきたいと考えています。更に、他の分野で活躍している薬学の仲間たちと協力し合い、患者様にとっての本当の意味での最適薬のお届けなどを通し、まだまだ日本では決して高いとは言えない薬剤師の地位向上を行い、ひいては医療の質の向上によって社会に貢献していきたいです。

グループ IC 氏名 山崎 友華

今回のWSは、同じ薬学生でも薬学を見る角度はこれほど違うのかと驚かされる、本当に貴重で刺激的な意見交換の機会でした。一番の収穫は、薬学に関連する各分野の未来を担っていく頼もしい仲間達が全国にいと実感できたことです。企業、行政、病院・薬局、教育…薬剤師のフィールドは多岐に渡るにもかかわらず、卒業して最初に進む道はいずれかを選択しなければなりません。日本の医療全体がより良くなっていくためには、この全ての領域の発展が必要です。他の道を信頼できる仲間へ預け、自身の持ち場で努力をすることは、最終的には全ての薬剤師の活躍の場を広げる結果に繋がると思います。今回、薬学の現状と将来を冷静に見つめ、問題提起や自己研鑽を積極的にできる仲間達に出会えたことで、私自身も彼らと手を取り合って未来の医療を作る一員であることを自覚し、今後が非常に楽しみになりました。

心残りなのは先生方を交えての討論が不十分だったことです。このWSの目的が学生の生の声を6年制教育に還元することだからこそ、学生から一方通行の主張で終わらせず、現場の薬剤師や先生・先輩方のレスポンスも飛び交う討論をすべきではないでしょうか。

最後に、今回のWSを通して次のステップへ進む意欲が改めて芽生えたことを大変嬉しく思っています。このような素晴らしい機会を与えて下さいました皆様、そしてWSで出会った友人達に心より感謝申し上げます。

## 【Ⅱチーム】

グループ II A 氏名 今井 建介

今回のWSは、私達がこの約5年半の大学生活の中で考え感じてきた事を伝え合い公式の場で発表する事ができ、非常に充実したものとなりました。今回のWSで出た意見が、発表という形だけのもので終わることなく、後輩たちのこれからの薬学部教育の改善および発展に活かされる事を切に願っています。

WSの内容としては、これからの薬学部教育についてというものでしたが、5つの議題の話し合いを行なっていく中で、自分がこれからどのような薬剤師として、人間として成長していきたいのかを再度考える事が出来ました。そしてこのWSで自分と共に切磋琢磨して成長していける大切な仲間たちとも出会えました。みんな進む道は違えども、「一生一期生」という強い自覚と意思を持った第一期生の後ろを追うだけでなく、共に並んでパイオニアとして後輩たちの道を切り開いていく「二期生」に私達ならなれると確信しています。

最後に、この度のような貴重な機会を用意して下さいました関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。今後とも、全国の薬学生の交流がはかれることを期待しています。

グループ II A 氏名 大柿景子

私の大学は栃木県の北部にポツンと立っている。他の薬学部との交流もなければ、他の学校との交流すら皆無と言っていいほどである。このような閉鎖的空間にいると「私の大学は薬剤師国試対策予備校?」「今までの学生生活は意味のあるものであったのだろうか。」とちっぽけな不安が襲う。そんな私にとって、今回のワークショップは、それぞれの場所で悩み、考え、笑い進んできた同志と出会うことができた素敵な会となった。

6年制で大きく変化したことは意識なのかもしれない。確かに、まだ6年制教育の内容に問題点はあると思う。しかし、最も大切な「意識」はどうか。「6年制だから」という期待の中で、行政の方や大学の先生、学生とそれぞれの立場から薬学領域について必死になって模索する。そして、その行動は連鎖し、個人のやる気や気合、努力に繋がる。そういった意識の積み重ねの中で、薬学がより良いものに進化していくのだと思う。「意識が変わった!」そういう面では少なからず、6年制になった意味があったと感じる。

これから、私たち67人の進む道は違う。目標や理想も違う。しかし、高い志を持っている。それぞれの場所で、それぞれの力、魅力を発揮することで、未来を素晴らしいものに変えていけるのではないか。それを現実にするために、まずはここに参加したメンバーで、これからも切磋琢磨していきたい。

2日間本当にありがとうございました。

今回、このようなワークショップに参加させていただけたことをとてもうれしく思っています。全国の国公立・私立の薬学部生が一か所に集まる機会は、このワークショップでしか経験できなかったと思います。

全体を通して、みんな一人ひとり自分の意見を持っていて、6年制薬学教育をよりよいものにしていきたいという共通の熱い思いを感じることができました。それぞれグループで討論した後に発表の機会があったので、自分のグループだけに限らず、多くの様々な意見を聞くことができ、こういう考えもあるのだなと毎回勉強になりました。

第五部の「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」では、全体発表を聞いて、病院・薬局の薬剤師だけではなく、企業や行政に進む人たちも含めてみんなで連携していくことが必要だと感じました。

最後に、6年制薬学教育を意味のあるものにしていくためにも、今後もこのようなワークショップを続けて、後輩たちにも是非参加して行ってほしいと思います。今回は貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

全国学生 WS の2日間は楽しい思い出ができただけでなく、互いに刺激し合えるとても有意義な時間だった。そして何よりも志が高い全国の仲間と出会い今後の薬学の発展について討議できたこの体験は自分にとってかけがえのない財産となった。このような機会を与えてくれた日本薬学会の方々に感謝したい。

この WS を通して一期生の方々も言っていたが『6年制の意味』ということが自分に一番響いた。6年制になりより長く臨床の現場を経験できるようになった、チーム医療について考えるようになった、薬の知識が増加した等の意見は恐らく容易に出てくる内容である。しかし本当に身につけているのかと言われれば疑問が残る。さらに言えば医学部、看護の人たちと交流は表面的なものになっているもしくはなかなか持っていないのが現状である。

自分たちは6年制二期生となる。進む道は違うかもしれないが如何に多くの人に働きかけ、新しいことに挑戦して行くかが今後の薬剤師の地位向上、チーム医療そして社会貢献につながると考える。この WS での事を多くの人に発信し、互いに切磋琢磨し、パイオニアとし新たな道を切り開いていけたらと感じた。

今回のワークショップでは、全国の大学の薬学生と交流することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。



討論では、志の高い他大学の学生の考えを聞き、職業の選択が幅広いことを再認識しました。そして、自分たちが6年制としてパイオニアになりたいという強い意思を感じ、たくさんの刺激を受けました。また、6年間の薬学教育を通してどう成長したのか、やり残したことはどんな事か、などを討論する中で自分自身の大学生活を振り返ることができました。そして、残り少ない学生生活をどう過ごすのか、さらに卒業後の目標が明確になりました。

また、今年はワークショップ終了後に情報交換会があったので、多くの学生と意見を交換し、さらに全国の同期の薬学生と友人関係を築くことができ、充実した2日間でした。このワークショップで得た経験や発見、気持ちの変化を大切にしていきたいです。

最後に、このような交流の機会を設けてくださった事、そして参加させていただけた事に感謝いたします。

グループ II A                      氏名 田中 達也

今回のワークショップに参加して、全国の薬学生の大学による異なった悩みや特徴、考え方の違い、さらには皆の熱い気持ちや知識を共有できて自分もモチベーションが上がりました。その中で、一番印象に残っていることについて書きたいと思います。

それは、SGDで挙げた実学としての医療薬学教育についてですが、実務実習前後ともに実際の医療で使える薬学教育が十分に行われていないのではないかと感じました。実習前では、各科目の横の繋がりを理解して学んでいなかったと思います。さらに、実習後では、処方解析や症例検討、相互作用、輸液など実習で学んだからこそイメージしやすい分野を実習後のフレッシュな記憶のうちに復習することができていないと思いました。実学としての医療薬学教育を考えても具体的な良い案は浮かびませんが、実習を通して、自分で考え調べ学んだことが一番実用的だと思いました。そのため、大学などが主体性やモチベーションを向上させるような環境（海外研修、BLS・ACLS講習、医・薬・看交流、地域交流、インターンシップの充実など）を提供することも重要だと思いました。

最後になりますが、このような場を設けて頂いたことに深く感謝します。

グループ II A                      氏名 松田 智子

今回ワークショップに参加させていただき、本当に貴重な経験ができ、また多くの尊敬できる仲間に出会い、有意義な2日間を過ごすことができました。

2日間を通し最も感動したことは、参加しているどの学生も高いモチベーションを持っており、互いに自分の意見を言い合い、活発に議論し合えたことです。特に第五部の「6年制薬学教育に望むこと」では、自分達の経験なども踏まえた多くの熱い意見が飛び交いました。ここで出た意見が少しでも今後の6年制薬学教育に反映され、より良いものになればと思います。そのためにも、「卒業後に取り組んでいきたいこと」で考えたように、第二期生の私達がパイオニアとなり、それぞれの場所で飛躍できるよう頑張ろうと強く思いました。

また、今まで他大学の方と話す機会はなかったので、今回、大学によるカリキュラムの違いや他大学の素晴らしい特色を知ることができたと同時に、自分の大学の良さにも気付くことができ良い機会となりました。

最後に、このような貴重な機会を下さった関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。是非、今後もこのワークショップが開催され、後輩達が薬学教育について考え議論する場となればと思います。

グループ II B 氏名 有川 裕美

今回のワークショップ(WS)は、自身の今までを振り返り、今後を考える良い機会となりました。普段なら知り合うことのできない全国の同期と意見を交わし、刺激し合うことができたことは、私の人生において、かけがえのない経験であったと思います。

今回の WS で最も印象深かったことは、学生の意識の高さです。それぞれが明確な将来のビジョンや夢を持っており、討論や交流会では、時間を忘れて熱く語り合えたことが大変楽しく、刺激的でした。また、視野が広く、医療人を志す者として様々な取り組みをしている学生の話聞き、自分は何をしてきたらうか、と反省することも多い WS でした。学生としてできる期間は残り少なく限られていますが、まず私にできることは、今回の経験を自分の大学の学生に伝え、知ってもらうことだと思っています。そして、6年制教育を受けた2期生として、自分にできることを今後実行していきたいと思っています。

もっと早くみんなと出会いたかった、ということが本音ではありますが、今回出会えた仲間とは今後も交流を続け、互いに刺激し合っていければ、と思います。

最後に、このような機会を設けてくださった日本薬学会の皆さん始め、ご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝致します。ありがとうございました。

グループ II B 氏名 磯崎 未帆

今回のワークショップでは、自分自身の6年間の大学生活を振り返るとともに、同じ6年制薬学教育を受けてきた仲間と意見を交換することで共通点・相違点の発見や新しい意見が抽出され、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

SGD では短時間に内容の濃い議論、発表では他班の様々な意見を聞くことで、参加者の問題意識の高さやアウトプットの質の高さに驚きながら良い刺激を受けました。全国の薬学生と話せたことで自分の大学の特徴を再認識するとともに、他大学の特徴を聞いて今後自分が取り組んでみたいことが見つかりました。

最も印象に残ったことは、6年制薬学教育を受けてきた共通の成長や課題が明文化されたことです。今回の議論による結果が今後の6年制薬学教育に反映され、より良い教育を受けた薬学生・薬剤師が誕生することを期待します。

今回のワークショップに参加したことで、自分自身の成長した点とやり残したことを確認することができ、やり残したこと・挑戦していきたいことに今後取り組みたいというモチベーションが上がりました。今回出会った仲間を大切に今後交流・議論を続けていきたいです。

今回のワークショップは他大学の薬学生と意見交換を行えた。それを通して視野を広げることができたので、とても有意義なものだった。特に印象的だった内容について触れてみたいと思う。

グループ討論の際、私を含めグループの他のメンバーからも、内服薬以外の薬剤の知識が不十分で実務実習中に苦勞したという意見が出た。この問題の改善策を自分なりに考えしてみた。大学で外用薬の使い方や輸液、注射剤の投与ルートについての授業を増やしても知識として身につけるのは難しいだろう。そのかわり、実務実習で複数人の患者を必ず受け持ち、その患者の症例検討を通して学ぶというのはどうだろうか。

これまで、他大学の薬学生と時間をかけて話しをする機会が無かったため、私の大学では当たり前のように行われている講義が他の大学では行われていない、あるいはその逆があることを知り、この大学間の教育の違いに驚いた。例えば、薬学以外の医療系学部も持つ大学では、大学内の他の医療系学部の学生が集まりお互いの専門的な立場にたった症例検討会を行うそう。それを通して他の医療従事者の考え方の違いを学ぶそう。実務実習で体験したことに加え、考え方の違いについて学んでいけば、現場へ出た際に円滑なチーム医療を行いやすいのではないかと思う。

グループ IIB 氏名 小林 絢子

参加してまず、どの学生も本当に同じ学年の薬学生かと思うほどに薬学に対する意識が高いことに驚きました。このワークショップでは6年制の薬学教育の課程で自分に何が身に付き、何が足りていないのかを今一度思い返し、考えることができる大変貴重な機会となったのはもちろん、時間を忘れてしまうほどに真剣に議論できる仲間に出会えたことが1番の大きな成果だったと思います。このワークショップ参加の機会を与えてくださった関係者の皆様には心から感謝致します。

また、様々な大学の特徴的なカリキュラム内容や、実習での様子などを聞き、今後6年制の薬学生、薬剤師としてこれから取り組むべき課題を見つけることもできました。特に、多くの班で「在学中に他の医療系学部と交流したい」という意見が挙がり、これから積極的にチーム医療を行っていくにあたって改善すべきポイントであると強く感じました。今後もこのワークショップで出会った仲間とのつながりを大切に、自分のできる範囲で課題に取り組みながら、「6年制薬学部を意味あるものにする」という目標の達成に貢献していきたいと思います。

グループ IIB班 氏名 杉村好彦

自分自身が6年制薬学部で学ぶ中で感じていた疑問。

薬学部は本当にこのままでいいのか？薬剤師は本当にこのままでいいのか？

『6年制薬学部』、『チーム医療』etc。。制度や言葉ばかりが先行し、現実にそぐわない理想論ばかりではないか、と。

思いの丈を吐き出したくてもぶつける場所がなく悶々とした日々を過ごしていた。そんな私にとって、

今回のWSでの最大の収穫は全国の薬学生と意見をぶつけあう事でその思いを共有できた事だ。今のままではいけないと感じている薬学生が大勢いることを知り、安心すると共に自分も自分の進む道で頑張ろうと気持ちを高める事ができた。

私自身としては、実務実習の際に今後薬剤師の職能や職域に大きな変化を起こしていく雰囲気があるか否かを判断しようと臨んだが、その時の結果は残念だと感じるものであった。そのため私は薬剤師として働く以外の進路に決めた。(そこを「よしっ、自分を変えてやろう!」と立ち向かわなかった私は6年制薬学部に対する周囲の期待を裏切った卑怯者かもしれない。)

ただ、WSに集まった全国の薬学生の溢れんばかりの熱意を思い起こすと薬剤師の将来は明るいものになるのではないかと感じた。後進の薬学生が実務実習を通して薬剤師になりたいと心から思える、そのような将来を期待したい。

グループ：II B      氏名：武永 理佐

このWSは本当に有意義なものであり、2日間にわたる全プログラムを通じて多くの刺激を得ることができました。

一番の収穫は、6年制教育を通じて自分達が何を習得してきたかを再確認できたことです。事前学習や実習を通して得られた点や物足りなく感じた点を、同期だけでなく先生方をも巻き込んで熱く議論できる機会は、普段の大学生活にはない貴重なものでした。そしてこの中で、6年間で成長できた部分が明確になった一方、まだ習得できていない部分も多くあることに気づき、残りの大学生活をより能動的に過ごして様々な知識を吸収しようというモチベーションにつながりました。

もう一つの大きな収穫は、全国の薬学部に大好きな友達ができただけです。参加者は皆明るく、そして自分の意見をしっかり持った子ばかりです。一緒に過ごして真剣に語り合った2日間はとても濃く、最高の夏の思い出になりました。卒業後の進路は薬剤師をはじめ、企業や大学院、行政など様々であり、数年後にまた集まって近況報告しあうのが楽しみで仕方ありません。

このように得られるものが本当に多いWSなので、今後も是非定期的に開催していただきたいと思います。本当にありがとうございました。

グループII B      水上嗣海

今回のWSでは他大学との意見交換を通して薬学生の共通点や相違点を知ることが出来ました。6年制薬学教育において、似た様な問題点もあればそれに対する解決策・ヒントとなるものを得ることが出来たように思います。そんな中、自分と同じ様な志を持った人達と知り合えたことはかけがえのない経験であり、大切にしたいと思います。

私はドラッグストアに就職を決めましたが、そこでセルフメディケーションの普及を行うことで薬剤師の地位向上を目指しています。WSの内容にも度々出てきましたが薬剤師という職業はまだ世間に充分認知されているとは言えません。例えば、アメリカでは日本のような国民皆保険制度が存在しないため、国民には自然とセルフメディケーションの意識が浸透し、薬剤師の活躍の場が広がっています。一方、



日本はセルフメディケーションに対する意識は低く、この事が医療費を増大させている要因の一つと考えられています。ですから、薬剤師の活躍の場を予防医学にまで広げることで社会に役立ちたいと思います。

最後に教育環境や今後の進路は違っても根底の志は同じであると再確認させてくれた同志、今回貴重な機会を与えてくださった日本薬学会の皆様にも心より深く感謝致します。

グループ II B 班

氏名 森恵里奈

今回この全国学生ワークショップに参加することが出来て本当に良かったと感じています。

普通なら中々接する機会のない他大学の薬学生と交流出来たことで、自分達が普段大学で取り組んでいることについての共通点や違いに気づき、また様々なテーマを班で話し合い、まとめ、またその他の班の考えを聞き、共感することや、自分では思いつかない発想などを聞くことが出来、本当に勉強になりました。

2日間通して強く感じたのは、6年制を卒業した薬剤師をより良いものにしたい、という皆の思いでした。自分達が経験したことをフィードバックしてさらにこれからの薬学教育を良くして頂きたい、また自分たちが薬剤師として社会に出て行った時に、6年卒の薬剤師として次世代の薬剤師を育てていき、その特色を活かし社会に貢献していきたい、その気持ちを周りの友人や大学の中で伝え広めたいと感じました。

その為には与えられるのを待っているのではなく自分から進んで学び、周りに伝えていくことが大切なのだと思いました。

この2日間で多くの掛け替えのない仲間に出会えたことに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

グループ II C

氏名 菊池 光太

2日間の日程で開催されたワークショップに参加して、意識の高い全国の薬学部生と熱く語り合う事ができて本当に充実した時間を過ごすことができました。数々の議論を経て「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」という大きなテーマを考えてきました。この事自体がこれまでの学生生活を見直し、将来への志を新たに作る機会となりました。これに加え、初めて出会ったメンバーでグループ討議時間内にプロダクト作成から発表の準備までできたという経験を通し、自身の成長を感じることができました。

2日間にわたって議論した中で、「どの職種までが医療人か？」という問題提起が私の中で特に印象に残っています。一般的に答えると、病院薬剤師・薬局薬剤師・DS等が医療人と認識されているかもしれませんが、しかし、6年制薬学教育を受けてきた私たちは、上記に上げられた職種以外の研究や企業、行政に進んだ人も医療人（薬剤師）という意識を持って従事する必要があるのではないかと考えました。どのフィールドで働いても、その先では患者や医療の問題へと直面します。そのため、各々が医療人としての高い意識を持つことで、多職種間の連携がこれまで以上にスムーズになると考えました。それを踏まえた上での"薬剤師+α"という概念であり、+2年間で医療人としての倫理観と将来へ向けた志・能力

等を養う必要があると思います。しかし、始まったばかりの6年制薬学教育は、まだまだ発展途上の部分が多く見受けられます。いずれにせよ6年制薬学教育の是非は、卒業した私達の活躍に影響される部分が多くあるはずで、卒業後に各々のフィールドで自身が何をすれば良いのかというニーズを見極めつつ、自己研鑽してゆくことが必要なのではないかと考えます。

ここで得られた経験を噛み締め、将来の糧としていけるように、今回出会った仲間と切磋琢磨してゆきたいと思います。最後にはなりましたが、このような貴重な交流の場を与えて下さった関係者の皆さまや諸先生方、今回のワークショップに駆けつけてくださった1期生の方々に深く御礼申し上げます。

グループ II C      氏名 熊井 芳絵

私にとって今回のWSは、“他を知ることで、自己を知る”ということを実感した2日間でした。今まで、自分の興味や置かれた環境をもとに行動してきましたが、WSで他の大学の取り組みを知り、大学間でのカリキュラムの違いに気付くとともに、自分の大学の特徴を再認識できました。また、他の薬学生の将来ビジョンを聞き、改めて自分の目指す薬剤師像や、これからどのような行動をとっていかねばならないのかを考える良い機会になったと思います。さらに、WSを通して、薬学部が6年制となつて何が変わったのかを私たち自身が社会に示していくことも必要だと感じました。

今後は、薬剤師のフィールドを自分たちの手で広げていくために、今回のWSで出会った仲間とこれからも交流を続け、様々な意見を聞き、視野を広く持つておきたいと思います。それぞれ働く場所やアプローチの方法は異なりますが“患者さんのために医療を良くしていきたい”という強い思いは同じだと思います。同じ思いを持つ素敵な仲間との出会いに感謝し、薬剤師の専門性を活かして社会貢献できるように、日々邁進していきたいと思います。

グループ II C      氏名 永井 寛子

6年制薬学教育を受けた者の責任。このWSで最も感じたことだ。6年制薬学教育を受けた私達に求められるものは多く、また、卒業時に身に付けているべき力もより高いものが必要だと痛感した。WSで出会った仲間達が実際に行っている多彩な取り組みを聞き、この責任を果たすには、私達には何事にもチャレンジできる行動力が重要であると感じた。大学間で行われる教育や研究、病院実習などの内容に差はあると思う。しかし、6年の大学生活から何を心得て自分の力を高める左右するのは、自分に積極的に学ぶ姿勢があるかどうかだと思う。このように考え、行動することが自分の将来の可能性を広げることに繋がると思った。

今回、自分が普段交流を持たない全国の薬学生と熱い議論を交わし、自分の視野が広がった。この仲間達から得たことをぜひ、自分の大学の後輩達に伝えたいと思う。私がこの体験を話すことで、少しでも多くの学生が6年制薬学部で学んだ自分に何が出来るかということを考えるきっかけになればと思う。私は、来年の4月から病院薬剤師として働く。これからも6年制薬学部を卒業した薬剤師としての責任を果たせるように、考え、アクションを起こしていこうと思う。

徳島という位置的な問題もあり、なかなか他大学の学生との交流の機会がないため今回の WS は非常に有意義なものでした。自分が日頃抱えている問題や薬学教育に対する疑問など普段は自分の中に押し殺しているようなことについて、1泊2日という日程の中で熱く語り合えたような気がします。

1つ驚いたことは、日頃自分の大学で SGD などをする際、どうしても消極的な学生が多く静かな議論になりがちなのですが、今回の WS ではみんなから意見がこれほどまでにと思うくらい噴出し、時間が足りないくらいでした。こういった人間たちが本気で語り合い、そして行動していくことで薬学教育も少しずつ前進していくのだなと感じました。今後はこの WS で得られたことを下の代の学生達にも伝えていきたいと思っていますし、我が IIC 班が掲げた目標である『薬薬薬行学連携』を実現できるように頑張っていけたらなと思っています。

このような素晴らしいワークショップを開催していただきまして、関係者の皆様方には深く感謝申し上げます。

常に先を見据え、行動を起こしている皆に出会えたことが大きな刺激となりました。自分と全く異なる視点から「薬剤師」、「医療人」を考えている方ばかりで、自分の考え方がいかに偏ったものであったのかを実感しました。同時に、考え方の視野が劇的に広がっていくことをこの 2 日間で感じました。今回のグループのメンバーはそれぞれ目指している道が異なりました。しかし、道は異なっても、質の高い薬剤師を目指しているという点で強い一体感を覚えました。また、「このメンバーが将来再び集えばきっと大きいことができる」と話の中で出てきたことがとても印象に残っています。この言葉を聞いて、私はここで出会った皆とつながっていれば自分の可能性がどんどん広がっていくと感じました。2 日間と短い間でしたが、皆の体験や意見に触れることで自分の将来や、今後の 6 年制薬学教育に対する意識が大きく変化しました。このワークショップで自分が経験したこと、変化したことを周りに伝え、同じように意識を高めて欲しいと考えています。これは意識を高めた人がさらに誰かの意識を高くするという循環を生み、薬剤師そのものの質を向上させる良いチャンスだと考えています。薬学部生でいられるのは残り僅かです。その間に多くのことに挑戦し、多くのことを学び、価値のある経験を積むために努力します。

こんなに熱い議論を交わすことができる薬学生の仲間が、こんなにたくさんいるのかと本当に驚いた二日間でした。薬学という共通の学問を異なる環境で学んできた仲間との出会いは、薬学教育への理解だけでなく、自分の至らない点や誇れる点を強く意識させてくれ、自分自身の成長にもつながったと感じています。そしてこのような仲間と議論を交わすことが、6 年制薬学教育のさらなる向上に少しでも貢

献できていたら素晴らしいことだと思います。また、今回のワークショップで自分が得たものを自身の大学へフィードバックしていくことが、6年制薬学教育になって2年目の卒業生となる私たちの大きな課題であると考えています。

会ったばかりでも自分のやりたいことや理想を語ることができる仲間と出会えたことが、なにより私の大きな財産となりました。今回出会った仲間との絆を忘れずに、「6年制薬学部卒業の薬剤師」として、誇りをもって活躍することを誓います。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった日本薬学会並びに関係各所の先生方に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

グループ IIC 氏名 間宮 千尋

今回のワークショップは全国の薬学部から1名ずつ学生を集めているとの事で、最初はとても緊張したが、始まるとすぐに打ち解ける事が出来た。積極的に意見し、役職を引き受ける学生が多かった事、最初のグループワークが絵を描くというユニークな物だった事が良かったのだろう。その後は6年制薬学教育についての議論がほとんどだったが、KJ法やWorld cafeといった様々な方法で出来たので毎回新鮮な気持ちで臨む事が出来た。

教育については多くの学生が「他学部と交流したい」とか「実践的な知識をもっと教えてほしい」などの意見を出していた。私も同意見で、「ここまで勉強したら、個人が求めるものにはそれほど差が無いのかもしれない」と感じた。一方「周りに求めるだけでは無く、自分の努力が不可欠」と言う人もいて、これにはハッとさせられた。薬剤師は生涯勉強だと言われ、学生のみならず現場の薬剤師（MR等も含め）も、普段から自分で考え努力する事がとても大切だと再認識した。

グループ IIC 氏名 吉川望美

今回のWSで一番印象に残ったことは、参加者の志とコミュニケーション能力の高さに対する驚嘆である。WSで話し合う内容は1期生の例を参考に想像はしていたが、実際にディスカッションしてみると、想像をはるかに超えるほど充実した意見交換をすることができた。全国に、薬学部の同期の友人が出来たことを大変嬉しく思う。

我々の代は6年制2年目であり、まだまだ課題の多い世代である。しかし、昨年のWSおよび今回のWSを通してその課題は認識されるに至り(正直な感想としては2日間でもディスカッションの時間が足りないと感じたが)、参加者の志を聞く限り、今後の我々の活躍次第で、6年制の課題も徐々に改善され、同時に意義も深まってくだろうと確信した。特に、参加者それぞれの進路、得意分野を生かしていくことが重要であると考えられた。6年制のメインテーマである「臨床」はもちろんのこと、臨床以外の企業や研究職に進む人たちの活躍も期待される。私は病院に就職するが、臨床以外に進む人とディスカッションをした経験はかつてなかった。しかし今回のWSで、様々な角度から6年制を見つめることができ、視野を広げることができた。このWSの成果を学内および全国に発信することが今後の課題であると思う。



### 【Ⅲチーム】

グループ ⅢA 氏名 円入 智子

今回、日本薬学会主催のワークショップにおいて全国 67 校の薬学生で討論するという貴重な経験を学生の間で得ることが出来た 2 日間は、私にとってとても有意義な時間となりました。

このワークショップでは多くのことを学ぶことが出来ました。それぞれのセクションのテーマは今まで自分の頭の中で振り返ったことのあるものでしたが、今回しっかりと時間を割いて考え、文字にして自分の外に表現するという作業を行ったことで得られた発見は少なくありませんでした。そして、着眼点・推察力・向上心・行動力・情報発信力などの自分に足りない点において多くの同期から刺激を受けることが出来たことや、今まで 1 人の意見だと思っていたものがそうでなかったと気付くことが出来たことも、自分の中に留まらせていた意見を外に出す機会を得たためであると思います。その結果、意見の共有は新たな動きや発展を生み、変化をもたらす力を持つということも知ることが出来ました。

最後に、このような機会に参加させてくださった開催関係者の方々、参加された各大学の薬学生の皆様に感謝申し上げますとともに、今回の経験を無駄にしないようこの出会いを大切にすることを約束いたします。

グループ ⅢA 氏名 大川 寛代

今回、様々な大学の薬学生の方達と出会い議論を交わすことができ、大変貴重で有意義な時間を過ごすことが出来ました。全国場所は違っても同じような疑問や悩みがあり、互いに共感し合い、また、学校ごとで特色のある制度や校風があり、とても興味深く話を聞くことができました。私はこの二日間で、参加した 67 名の薬学生の方達と多くの情報と感情を分かち合うことが出来たと強く感じています。

ディスカッションでは第一部の“絵”の作成から始まり、リラックスして取り組むことが出来ました。また、各部で様々な手法が用いられており、とても勉強になりました。周囲の薬学生の積極的な発言や先生方の的確なアドバイス、温かな空気などに背を押されて、始終前向きに議論に参加することが出来ました。

今回、私がこのワークショップに参加させていただいて思ったことは、もっと早期に、もっと多くの薬学生に自身らの将来や目標、薬学生としてのあるべき姿に関して話し合う機会をもってほしいということです。実際に私はこのワークショップに参加するまで、目指すべき薬学生像というものを深く考えたことはありませんでした。毎日の授業、研究、バイト、旅行など、多くの物に目を奪われて、いつの間にか時間が過ぎていきます。これまでの日々は私にとって有意義に過ごしてきたと感じてはいますが、今回のテーマの内容のように、一つ視点を変え考えることで、薬学生としての大学生活、何かもっと変えられたのではないかと思います。

私は今回のワークショップに参加させていただき感じた気持ちや感動、人との出会いなどこれからも大切に、この夏、皆で話し合った内容にふさわしい薬学生となれるよう、残りの学生生活に取り組んでいきたいと思っています。このような貴重な経験をさせていただきました関係各所の方々、全国の薬学生の方々に深くお礼申し上げます、本当にありがとうございました。

私にとってワークショップへの参加はかけがえのないものとなりました。

今まで他大学の薬学生と意見交換をしたことがなかったので、この2日間でどのようなことになるのか想像もつきませんでした。実際に始まってみると、絶えず意見が飛び交い、ひとつ言葉を発すると誰かが言葉してくれる…このようなことは初めて経験しましたが、この雰囲気は私にとって良い刺激となり、とても心地よく感じました。そして、多くの意見を聞くことで自分の今までの価値観と比較でき、違った方向からも物事を見るということが自分を成長させてくれると再認識できました。

今回皆さんの意見を聞いて、この5年半を振り返るとただ毎日学校に通っていたように感じ、もっと出来たことがあったのではと自分の考えの甘さを痛感しました。これから残りの学生生活や今後社会に出ていく上で、ここで経験したことを生かし、自分に出来ることは何かということを様々な方向から考え、積極的に行動し、自分自身を成長させていきたいと思います。

最後にこのように気付かせてくれたみなさん、企画運営に携わったスタッフのみなさん、本当にありがとうございました。

今回ワークショップに参加することで、残り8ヶ月を切った学生生活を振り返ることができたと同時に、他大学の薬学生のモチベーションの高さを実感でき、有意義な時間となった。

今回どのセッションにおいても『6年制』というフレーズが使われていた。6年制に移行した薬学部の特徴は実務実習であり、議論の中心に位置付けられていた。中でも、実習内容の統一化は多くの学生が望んでいたように感じた。また、実習の時期に対する総合討論での発言が印象的だった。3期に実習があることで、就職活動がままならない状態であった学生がいたことは事実で、学校側が早めに取り掛かる様にと言うだけでは無責任だと感じる。将来に薬局薬剤師を志望している私は、重要視してこなかったが、この状態だと6年制の薬学部は確かに薬剤師の育成でしかなくなる。学生の意見を取り入れるべく、実習制度の改定を願う。また、可能であれば薬学生全体でも今回の様なテーマを掲げて討論すべきだと思う。

薬剤師になることがゴールではなく、スタートだと再認識することが出来た。これをよい機会に、残りの学生生活を悔いなく遣り遂げたい。

最後になりましたが、この様な機会を与えてくださった関係者の皆様に感謝致します。

いま改めて振り返ると、本当にこの第2回全国学生WSに参加して良かったと感じます。本来ならば交えることのない全国の大学の薬学部生と一堂に会して討論するという経験は、私の一生の財産となりました。この一期一会の出会いを大切にしていきたいと思います。これには、1期生の先輩方にも大変感謝しなければならないと感じています。WSが1泊2日で開催されることとなり、交流会で班以外の他大学の同級生ともお話しする機会が得られたからです。普段の大学生活では知り得なかった価値観や思

想に触れて、私自身も大変刺激を受け、今後とも努力していこうと引き締まる思いでした。

WSでは、薬剤師の将来をよりよいものにするべく、積極的に情報を発信し、今後の薬学会を盛り上げていこうと決起しました。私達もまだ薬学教育新課程の2期生です。後輩達や未来の薬学会を盛り上げるために、1期生に続いて道を切り開いていく立場にあると思います。

今回、私達が討論して生み出された学生目線からの意見が、今後の6年制薬学教育の発展に役立つことを願うと同時に、このような素晴らしい機会を設けて下さった関係者の皆様に深く御礼を申し上げます。

グループ III-A 氏名 澤田友宏

日本薬学会全国学生ワークショップの参加を大学から勧められるまでは、このような交流の機会があることをまったく知りませんでした。

参加前は、会場の雰囲気打ち解けられるか不安もありましたが、着いてみると各大学の代表の方々ということもあり、積極的でコミュニケーション能力の高い方ばかりで安心しました。

討議では6年制薬剤師についてグループに分かれてテーマごとに話し合いました。自分では気づけなかった意見や個性的な意見もあり充実した時間を過ごせました。

懇親会では、自分のグループだけでなく多くの方々とも話すことができとても楽しく過ごせました。また、懇親会は1期生の方々の要望で行えたこともあり、1期生の先輩方には大変感謝しています。

他大学では実務実習後、実習不足に感じた部分を再度体験が行えるアドバンス制度というプログラムがあることを知りました。

また、ポリクリ制度により医学生など他職種と接することでチーム医療に必要な感覚をつかむことができる大学もあり、本校よりチーム医療を学んでいることが印象的でした。

他大学での取り組みを知り、取り入れることは未来の薬剤師の在り方を考える大きな一歩だと僕は思いました。

グループ名 III A 氏名 矢島 里菜

この度は他大学の同期の学生と話し合うという貴重な時間を経験させていただき、誠にありがとうございました。今までこのような交流の機会はなかった為、今回参加し、同じような悩みを抱えている事、自分にはなかった考え方を知ることができとても有意義な時間を得ることができました。さらに、自分の中ではまとまらなかった考えの概要をグループ内で話すことで誰かがその言葉をまとめ、自分が何を言いたかったのかを改めて知る機会にもなりました。また、どの発表者も説明の仕方がとても上手く時間内に要点を発表する技術や言葉選びなど見習う点多々ありました。

最後に6年制薬学部は始まったばかりでありまだまだ改善すべき点多いと思います。今回挙がってきた問題点が教育や実務実習にフィードバックされより良い6年制薬学部になっていけばよいと思います。

そして、こんなにも多くの薬学生が参加し意見交換ができるという場はなかなか無いと思います。是非、今後このワークショップが続き多くの学生が経験できることを望みます。

今回、参加させていただいて本当に感謝しています。一生の宝ができました。

最初は友達ができるのかとか、しっかり SGD できるのか心配でしたが、そんな心配は一瞬で消え去りました。こういう場に集まる人はみんな社交的で話しやすく、高い志を持つ同士だとすぐに感じました。自分を含めみんな今の学校の仕組みや社会のシステム、自身の現状に満足してなくて、それらの問題点に対してただ愚痴を言うだけでなく、「自分が変えてみせる」とか「自分が薬学業界を引っ張っていく」など自分でこれから変化させようと努力している人たちがばかりでした。本当に良い刺激をたくさんいただきました。またいつか皆が集合した際に社会人になってどれだけ成長できたか話したいです。またその時に会っても恥ずかしくないようにこれからも自分を高めていこうと思いました。

僕たちに残された学生生活は残り 8 カ月もないけど、その短い時間でも濃厚で充実した時間にしていこうと思います。また来年参加する学生のためにも是非この会を続けていただきたいと思います。薬学会の方、タスクフォースの方、今回参加した全国の薬学生のみenna本当にありがとう！

十人十色、質実剛健、正にこの二つの四字熟語が当てはまった WS だったと思います。

まず驚いたのは薬剤師として歩む進路です。私の友達関係ではほぼ全員が病院、又は薬局を志望しているため、全国的な薬学生もこんな感じなのだろうか？とっていました。

ところが、同じ班になった方々の進路を聞くだけでも、薬局、病院、法学、研究、OTC…各々の学校の教育方針の下、6 年制薬学を学び、様々な進路に確固たる信念を持ち挑んでいる方々の中で特定の話題について自分を前面に出して話し合う。こんな機会はこれをおいて他には無い！そう思い夢中で参加していたと思います。

同時に討論において自分の考えと共感出来るものもあれば全く反対の事もあり、更に意表を突く解答や質問が飛び交う中で意見を纏め、発表する。与えられた話題に対して短時間の SGD でこれほどの意見が出せ合えるのだ、ということに感動しました。

私が代表者でいいのだろうか？話し合いに付いていけるのか？などと様々な思いを抱いて当日を迎えましたが、討論に参加して思ったことは、だから私だったのか！という喜びでした。

この経験を様々な形で今後の自分、強いてはこれからの後輩の為にも役立てられる WS だったと思い、今後もこのような活動の場を広げて行って欲しいと思いました。

「薬学部は薬剤師の専門学校ではない。」これは WS を通してとても印象に残った言葉です。自分の中でもややしていたものが、すっとした感じでした。

大学の友人の間では「6 年間も薬学を勉強して、薬剤師にならないのはもったいない。」という意見が当たり前でした。私自身も 4 年生頃まではそう思っていました。しかし 5 年次での長期実務実習を終えて、薬学の知識を持って医療に関われるのは薬剤師だけではないと気付きました。そして私は製薬会社



に就職を決めました。

自分で決めたことだけれど、薬剤師に少々未練があった私ですが、今回のWSに参加し、様々な人の話を聞くなかで自分自身の選択に納得する事ができました。これが一番の収穫でした。

またそれぞれ進む道は違っても、根本にある思いは一緒だということを確認する事が出来ました。来春から薬剤師資格を持った私たちが、病院、薬局、製薬企業、一般企業、行政など、それぞれの舞台で活躍する事で薬剤師の重要性が認められると良いと感じました。そして私自身も薬剤師としての誇りを忘れずに、仕事に取り組んでいきたいと思いました。

最後に、このような機会を与えて下さった先生方に深く感謝しています。ありがとうございました。

グループ III B      氏名 福島 英美里

全国から薬学部の学生が集まるこのような機会に参加できて本当によかったと思っています。さすが各大学からの一名ということもあって、みんなのフレンドリーさやプレゼン能力の高さに驚かされ、たくさん学ぶところがありました。

みんなでディスカッションをするにつれて、自分が持っていた悩みや不安などをどの学校の学生も持っているということを知ることができてとても安心しました。また、同じ薬学部でも学校によってカリキュラムが全然違って、もっている悩みが違うこともあり、驚きもありました。

泊りがけで懇親会などもあったおかげで、かなり親密な関係を築くこともでき、かなり有意義な二日間だったと思います。

タスクフォースの先生方はじめ、今回お世話になりましたすべての先生方に心から感謝いたします。

これから、6年制教育を受けた学生として社会にでていきますが、学生にそれぞれ思い思いの夢があり、それを共有できたことがとてもよかったです。今回のこのワークショップがこれからの6年制薬学部の後輩たちに役に立つことを願っています。

グループ III B      氏名 柳谷 寛人

全国の薬学部の学生が集うワークショップ(WS)に参加することができ、とても光栄に思っています。新しい発見があり、わずか2日の間に自分の成長を感じることができました。

特に印象に残っているのが、卒業後に行いたいことを語るWSです。III Bは進路が6人とも様々で、6年制薬剤師の可能性を十分に感じさせるものでした。自分以外の5人は褥瘡や希少疾患の研究、地域連携、ジェネラリストを目指す薬局薬剤師、各地を飛び回る病院薬剤師といった立派な夢を持っていました。自分も北海道での地域医療を話すことで、自分の進路への思いを整理することができたと思います。

もう一点、議論の中で気になったのは他学部、他大学との交流です。話を聞いていると大学のカリキュラムとして取り組んで欲しいとのことでしたが、学生個人で他学部、他大学と交流し自己研鑽する能力も必要になるのではないかと思います。今後、薬学教育はより良い方向に向かっていく過程で、大学が行うことの取捨選択が重要になってくるのではないかと感じました。

今回学んだ薬剤師としての目的、自己研鑽の必要性を噛みしめて、これからの薬剤師人生を歩んでいこうと思います。

私は今回、全国の薬学部が一堂に会するまたと無い機会、面白い事が起こらない訳がない…と思いのWSに参加しました。

WSで出会った皆は自分の意見をしっかり持ち、それを主張しながらも相手を受け入れて前向きに目標を定めて進んでいる、そんな印象を受けました。だからこそ会って数時間足らずでお互いに夢を語り合えるような熱いディスカッションが出来たのだと思います。WSが終わっても終わることのないディスカッションに、学生同士の繋がりや士気の高さを実感し、その一員となれたことをとてもうれしく思います。

一方、私は今回のグループ討議や総合討論には賛同する意見が多く、皆感じている事は似ているなど思いましたが、学内の友人の中では私は少数派となってしまいます。ここに外部で行うWSにおける偏りのようなものを感じてしまいました。大学単位での偏りももちろんあると思います。なので、大学の特色を探り入学後のギャップを無くす為にも今回のようなWSを是非学内でも行って、高校生などにも開示出来れば良いのと思いました。

私もWSで得て感じた事を伝える事も忘れずに残りの学生生活とこれからの薬剤師としての道を明るく豊かなものにしていこうと思います！

本ワークショップ（以下WS）へ参加して、他大学の学生の話聞くことは、自分自身と6年制薬学教育について考えるきっかけになりました。今まで6年制教育を受けてきたなかで私が抱いていた疑問や不満を同じように抱いている方々、違った経験や考えを持つ方々と語り合って、6年制薬学教育は発展途上でまだ不十分な部分があると確信すると同時に、不十分でも良しとする自分の甘さと無知さに気付きました。

WSを通して私が経験したように、多くの学生に気づき・考えて・話し合う機会を持ってほしいです。そのため、私は研究を続けるために大学院に進学しますが、大学院4年間で、後輩学生が多くの人と接することができる環境を作りたいと思っています。

「6年制を意味あるものにするのはこれからの私たち」という一期生の先輩の言葉が心に残っています。私も二期生として、これからの頑張りで6年制を意味あるものにしてみせます。みんなで盛り上げていきましょい。

最後になりますが、今回のワークショップ開催に関わり、貴重な経験をさせてくださった関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

今回のワークショップ(WS)に参加して本当に良かったです。全国の薬学生が一堂に会し、どのようなWSが展開されるか楽しみにしていましたが、その内容は実に刺激的で有意義なものでした。

グループでの討論や全体での発表を通して、改めて6年制教育について考えることができました。こ

これまで受けてきた6年制教育について自分がどのように感じ、他大の学生がどのように考えているかを知ることができたのはWSの大きな成果であり、今後の6年制教育を意義あるものにしていくための指針を得たように思います。

私たちのこれからの進路は異なりますが、最終的に目指すものは社会のため患者さんのためであることは同じです。6年制教育は薬剤師を調剤室から解放し、薬局病院からも解放し、分野に縛られない様々なフィールドで活躍する可能性をもたらしました。個々が各々のフィールドで全力を尽くし、様々な分野から社会に向けて薬学的アプローチをすることで薬剤師はこれまで以上に社会的貢献をできると確信しています。

今回のWSでは横のつながりを作ることができました。このWSが回数を重ね、OBOGとの交流から縦のつながりを作ることができれば、より有意義で魅力あるWSになり薬学会をさらに盛り上げていくことができると思います。

最後に、今回のWSの開催に御尽力頂いた全ての関係者の皆様に厚く御礼申し上げますと共に、一緒に参加してくれた全ての仲間に感謝します。



グループ III C 氏名 荒井 碧

本ワークショップ(WS)に参加するにあたり、初めは敷居が高く感じていた私でしたが、いつの間にか積極的に議論に参加し、非常に刺激的で有意義な時間を過ごすことが出来ました。本WSに関係する全ての方々に、心より感謝申し上げます。

今回のWSで感動したことの1つは、多くの学生が積極的に発言しつつも互いの意見を尊重し合い、協力的に作業を進めていたことでした。人間性を養う場は大学に限りませんが、6年制薬学教育でコミュニケーション能力の大切さを学んだ成果が表れていると感じました。従って、今回のWSでは現行の6年制薬学教育について沢山の問題点を抽出しましたが、成果を上げつつあることも確かであると私は思

いました。

今回の WS への参加目的は、6 年制薬学教育を実際に受けた者として薬学教育に対するフィードバックをすることだと私は考えていました。しかし、全国の薬学生が問題意識を共有し、共に考えたことによって、逆に私達が啓発を受けたように思います。この WS を終えて、6 年制薬学教育の明るい未来のために、自分達に出来ることをしたいと思っている学生は私だけではないと思います。今回の WS をきっかけに、2 期生も協力して 6 年制薬学教育のために継続的な貢献をしていくことが出来ればと考えています。

グループ III C 氏名 杉本 智宣

是非、次回以降のテーマとして取り上げていただきたいことがあります。それは「どうすれば、ここで話し合った内容（思い）を他の学生に伝えられるか」です。

「大学に帰ったら、是非今回のことを他の学生に伝えてください」とのお話がありました。しかし、実際にはそれが一番困難なのではないかと考えています。このワークショップでは、学生だけでなく、本当に熱心な人たちが集まっていることを何より実感しました。それだけに、ここにいない人たちとの温度差を感じて仕方なかったのも正直な感想です。

いくつかのグループの発表の中に「薬剤師の存在を世間にアピールする」という内容がありましたが、それと同時に「内へのアピールをいかにするか」も重大なテーマだと思っています。例えば、このワークショップにしても「大学に帰って皆に伝えるまでがワークショップ」であっていいのではないのでしょうか。

今回は、上記も含めて、様々な正直な話が出来て本当に楽しかったです。またいつか何処かで、皆さんと関わりが持てることを楽しみにしています。ありがとうございました。

グループ III C 氏名 竹丸香織

「6 年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」が今回の WS の主なテーマでした。そのテーマ通り、それぞれ異なった環境で六年間薬学を学んできた薬学生と議論を重ねることで、自分自身の大学で学んだ六年間を改めて振り返ることができ、これから目指す薬剤師像がより明確になりました。本当に得難い良い機会でした。議論のなかで、最終的に、私たちがお互いに確認し合ったことは、「薬剤師六年制を、私たち自身が意義あるものにしていかなければならない」ということでした。六年制は始まったばかりです。これから薬剤師として社会にでていく私たちは、六年制二期生としての自覚とその責任を忘れることなく、それぞれが、自分の選択した道を邁進していかなければならないのだと改めて認識することができました。自分自身の成長が、薬学全体の発展に貢献できるように今後も努力していきたいと思っています。最後になりましたが、今回、このような機会を設けてくださったすべての方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。



今回、全国の薬学生と情報を交換し、真剣に議論を行い、そして共に笑い合った経験は何ものにもかえがたい経験となりました。そして、これまでの学生生活を振り返る機会となったのみならず、将来の自分について考える良い契機となりました。

6年制薬学教育における現在のカリキュラムやシステムに疑問や不満を抱くのは自分だけではなく、全国の薬学生が抱く共通の思いであると感じたと共に、今回のメンバーが中心となれば「薬学教育をいつでも、どこからでも変えていくことができる」と感じました。

そして、短い討議時間に出た数々の意見は、ちょっと考えれば容易く思い浮かぶものではなく、日頃の思いが凝縮された意見であると感じました。この点も踏まえて、今回のワークショップで飛び交った意見が今後の薬学教育に反映されることを強く願っています。

また、描いたドアの絵がまたとない賞を受賞できたことも素敵な思い出となりました。副賞に頂いたペンセットは、日々の勉強に彩りを添えています。

最後になりましたが、学生生活最後の夏休みの思い出となった今回のワークショップに参加させていただいたことを深く感謝致します。

グループ ⅢC 氏名 西關 由梨子

このたびは全国の志を同じくする薬学生と出会う機会を与えていただき、大変貴重な経験であったと感謝しております。6年制薬学教育の意義について、ここまで深く考え、語り合ったことはありません。これまで過ごしてきた6年間の意味を再考した2日間でした。

他の大学でのカリキュラムや実務実習に対する意見を知り、6年制薬学教育が黎明期であることを実感しました。前回、今回のワークショップのような、学生の実情をフィードバックする機会を継続して設け、改善を続けて欲しいと思います。

また、6年制とは、4年制を卒業した先輩方が開拓してきた薬剤師の職能、職域が社会に認められ、それが基本的能力として求められるようになった結果であると再確認しました。

私たちが社会に出てすぐ、6年制である意義を発揮することは難しいと思います。しかし、広がっていく薬剤師の可能性を信じてさらに学び、実践し、また後輩に伝えていくことが重要であると感じました。

私たちが一人前になったときには、「6年制薬学教育の結果」としてよりよい医療が実現すると信じています。

グループ ⅢC班 氏名 平石 龍大

会場に着き、昼食を食べる際、学生全員が既にワイワイ話しながら食事をしている姿を見て、食事会場を間違ったのかと思いました。恥ずかしながら10分くらい前に会ったばかりの人達がこんなにもすぐ打ち解けている光景が少し信じられませんでした。また同時に、こういった人たちとこれから1泊2日



で話せると思うと非常に楽しみになりました。実際、多くの人の意見や考えを聞くことができ、これからの薬剤師の在り方について熱く話すことができました。非常に有意義な時間でした。

あれからまた考えてみたのですが、6年制教育について私の意見を少し述べさせていただきたいと思います。最後の議論で「進路の幅を広げたい」という話がでたのですが、なんか違うかなと思いました。6年制教育はある意味進路を決めるためのものだと思います。臨床知識、スキルに力を入れて教育し、有能な薬剤師を医療機関に送り出すというのが6年制教育の大きな目的だと思うのですが、幅を広げたら4年制に戻すことと同じです。改めて6年制教育の意味、4年制とは何が違うか、薬剤師はこれから何を目指していくのかということについて私を含め、薬学生1人1人がしっかり考え、行動していかなければならないと感じました。

グループ：ⅢC 氏名：松原 加奈

今回ワークショップに参加させて頂き、全国の薬学生と交流できたことは私にとって大変有意義な時間となりました。

討論を通して、カリキュラムの異なる他大学の学生とも共通する悩みや希望を持っていることに気が付きました。また、大学側に求めるだけでなく、主体的に動いていくことが重要だと、活動的な参加者の姿から感じました。同時に、参加者が理想の薬剤師像や高い問題意識を有することに刺激を受けました。今回感じたこと、刺激を受けたことを、今後の学生生活に活かしていきたいと思います。

また、1期生の先輩方から貴重なお話を伺えたことも参加して良かった点の一つです。様々な進路を歩まれている先輩方の姿に自分の1年後を重ね、後輩たちに自信を持って自分の仕事について紹介できるよう頑張っていきたいと思いました。

この場で出会った仲間の存在は心強く、今後も交流を重ね、刺激を受けていきたいと思います。またこのように他大学の学生と交流する機会が増えることを願います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を提供して下さった日本薬学会の方々、タスクフォースの先生方に感謝申し上げます。

【一期生】

グループ 一期生      氏名 小川 隆弘

昨年に引き続き、本ワークショップにお招き頂きありがとうございました。

今回参加した一期生によるワークショップの中で、「6年制薬学教育へ変わった意義とは何か」、「4年制との違いは何か」という問いかけがありました。これらの問いに対する明確な答えは導き出せませんでしたが、「一生一期生である我々が、6年制教育を意味のあるものへと築き上げていくことが重要である」という結論を出しました。現在、職種の異なる一期生が集まって、この結論を出せたことで、私は頼もしい仲間恵まれていると改めて実感することができました。

我々の先輩方のご尽力により、薬学教育は6年制へと変わり、6年制第一期生がついに社会に出て参りました。先輩方が整えて下さった6年制という環境を活かすも殺すも、我々一期生の行動次第だと感じています。そのことを肝に銘じて、病院実務実習に訪れた後輩たちの教育に積極的に関わっていきたいと思います。

グループ 1期生      氏名 吉田啓太郎

今年のワークショップは昨年と打って変わり、東京都府中市で行われた。開催場所も然ることながら、セミナーハウスの利用、情報交換会やワールドカフェなど、大きく様変わりしたワークショップだった。会場は昨年と同様に駅から近いが、東芝や日銀が立ち並ぶ一画にあり、厳かで身が引き締まる感じを受けた。各グループに一部屋与えられおり、周りに流される事無く活発な討論が出来ていたように思えた。しかし、各プログラムで2期生が導き出した答えは昨年と遜色無い様だった。昨年と同じタイプの薬学生が集まったのか、実務実習や卒業論文などを経験すると同じ段階にシフトするのか定かでは無いが、想いを同じくする者が多い事に気付かされた。今後の6年制学部生の考える事が私たちの代から変革していった時、6年制薬学教育が変わってきたという1つの指標になるのではないだろうか。

また、再び「一生一期生」でワークショップを行えた事は非常に有意義な事だった。2期生と共に6年制を意味あるものにしていく行動力を示せるように、日々精進して行きたい。

第2回ワークショップに参加させて頂けるように便宜を図って下さった、大学の先生方ならびに日本薬学会の先生方に厚く御礼を申し上げます。

グループ 一期生      氏名 渡邊 なお子

薬剤師として歩み始め約5ヶ月、「一期生として何ができるだろうか？」という課題を抱えながら不安と焦りの毎日を過ごしてきました。しかし、今回の第2回全国学生ワークショップへの参加を通じ、「今、取り組めることに精一杯取り組めば良い。」と気付くことができました。まずは焦らず、薬剤師としての基礎をしっかりと身に付け、その上に少しずつ専門性を築いていけるように、一步一步着実に歩んでい

きたいと思います。

後輩へ。学生でいられる時間を大切にしてください。様々なことに積極的に取り組み、失敗も成功も繰り返す中で、たくさんのごことを得られると思います。その中から「目指したい薬剤師」を見つけてください。薬剤師として歩み出すと、想像以上に様々な出来事が起こります。その数々を乗り越えていくための原動力として、「目指したい薬剤師」は必ず必要になります。薬剤師として歩み出す日を思いながら、視野を広くもって、前向きに頑張ってください。

最後に、一期生として全国学生ワークショップに参加できるという貴重な機会を与えてくださいました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

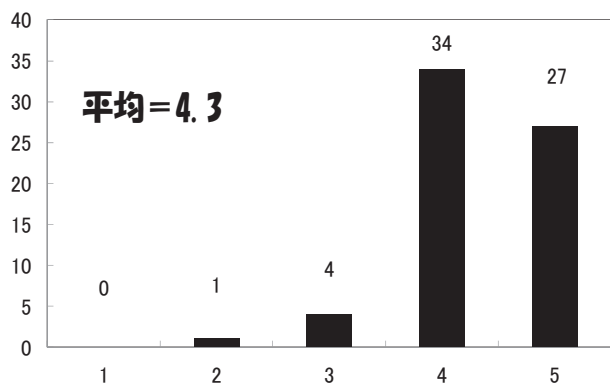
参加者

アンケート結果

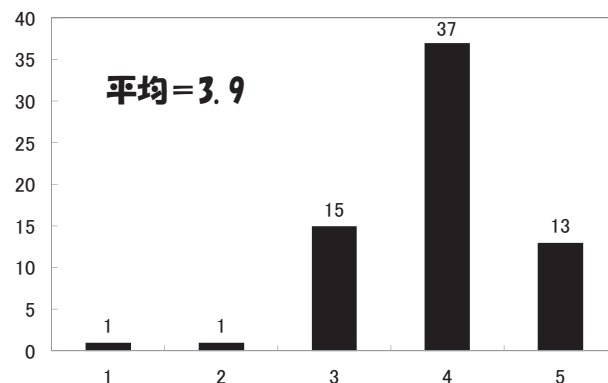
## 第1日目の評価



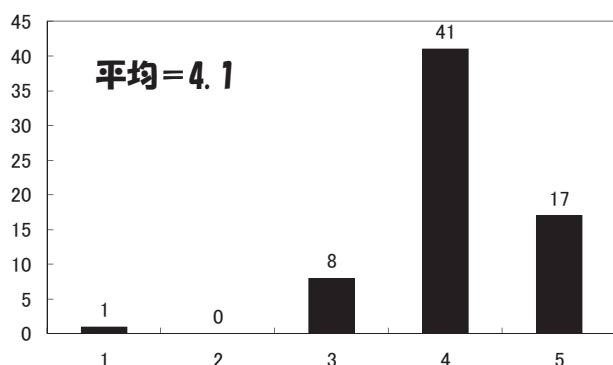
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



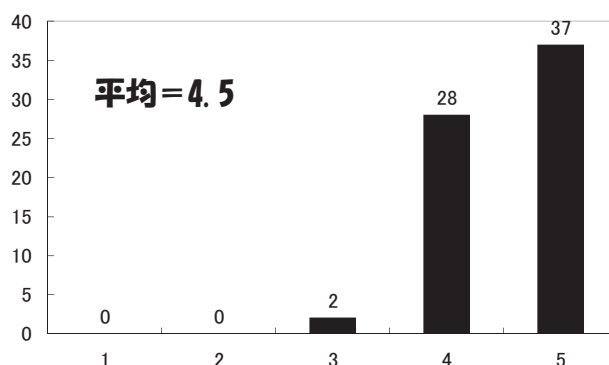
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容はあなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事は良かったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。(抜粋)

- ・ 薬学生＝臨床では必ずしもないこと。視野の狭さを反省しました。
- ・ 色んな考え方、教育のうけ方、学校の特色が知れて良かったです。
- ・ 他大学の学生と話すことが出来て、他の大学ではどういう教育があるのかとか、みんなが6年制についてどう思っているのかを、知ることが出来ました。とくに、他の学部との交流等については、みんな同じように問題に考えており、これから変えていく必要があると思いました。
- ・ 6年制＝薬剤師として働く、だけが全てという人が一般的であること。(もちろん、薬剤師の資格を持つ以上、薬剤師としての責任があるので大事)。皆モチベーションが高い！
- ・ 大体全員が同じような考え・悩みをもっていること。しかし、時には自分が考えていなかったことを持っている人もいたこと。模造紙へのデザインも、みんなで話していいものに出れた。



- ・ 皆、実務実習には何かしら不満点を抱えていること。
- ・ みんな同じような悩みもあり、逆に全く違うことを考えている人もいるということ。
- ・ 自分の大学と他大学とで、特色が異なり、不満に思っていることもそれぞれだと感じました。話し合いの中で、自分の大学は、恵まれているなど強く感じました。
- ・ 他大学の学生さんの優秀さが、何より印象的でした。カリキュラムも、単科・総合大学それぞれのスタンスも、私達の将来や価値観に大きく影響すると思った。
- ・ 大学が違うことで、学んできた事や考え方が違うことを知り、吸収出来た部分もありました。大学に持ち帰って、教授と話したいと思えます。
- ・ 想像していた以上に、大学によって違いがあった。どの大学にもいいところ、改善したいところがある。
- ・ 自分が思っている内容を持つ仲間が多くいることが分かり、とても有意義だった。また、色々な Background や、価値観を持っているため、とても勉強になったし、よかったと感じた。
- ・ 大学によって教育内容が全然違う事。一方で、こういった教育があればいいのにといいところは、共通する部分が多かったこと。
- ・ 他大学の特色について話せたことで、自分の大学でできていること、できていないことが理解できました。他の参加者が感じていることが、自分と似ていたり、違ったりして、6年制の薬学教育がどういうものであったかを再度理解できました。
- ・ 他大学の薬学部の学生も同様の悩みを抱えている部分があり、自分の大学だけの問題だけではなかったと理解できた。コアカリの足りない部分、日程の問題（Ⅰ期～Ⅲ期）、実務実習の不満点、授業が仕事に結びつかない
- ・ 他大学の方も、他医療職との連携をもっと知りたい、実践したいと思っていることがよくわかった。また、各大学に、土地の利を活かしたカリキュラムがある（場合もある）ことがわかり、羨ましいと思った。
- ・ 他大学の取り組みを知ることで、自分の大学に足りない所や、逆に良いところを認識することができたと思えます。また、6年制薬剤師として、チーム医療や臨床現場への関心が高まったことが、感じられました。しかし、その関心の高まりを上手くカリキュラムや授業に活かしている大学が少ないことも分かりました。
- ・ 自分と同じ考えを持っている人がいると分かったこと。また、逆に自分だけでは気付かなかったことに気付けたこと。6年間の生活を振り返ることで、たくさんの事が学べたのだと実感できたこと。
- ・ 薬学教育へのフィードバックを順を追って、話し合いが出来るように構成されているということ。他校との違いがわかった。特に、国立と私立の違い、新設と伝統校との違い、カリキュラムのばらつきは、今後どうにかして埋めたほうが良いと思った。
- ・ 他大学で積極的に取り組んでいる事・分野が良く分かった。（例 バイタル、研究）
- ・ やっていることは理解できましたし、お互い意見を交換でき、他大学のことなども理解できたため良かったです。ですが、この意見を少しでも取り入れてくださらなければ、行った意味がないと思えます。
- ・ 他大学との違いを改めて感じました。大学によってこんなにも違うものなんだと思ってショックでした。

- ・ KJ 法。ワールドカフェ。初めて知りました。こういう議論をやったことがなかったので、体験できて良かったです
- ・ KJ 法やワールドカフェなど、初めてのディスカッション形式でしたが、楽しく参加することができました。意見はたくさん出ましたが、まとめることが難しかったです。
- ・ 他大学、他学部との交流に皆飢えていること。大学のカリキュラムにみんな、多かれ少なかれ不満があること。
- ・ 通っている大学や人ごとに様々な時間を過ごし、色々なことを思い、考えて生きているんだな、ということを実感しました。
- ・ 他大学が様々な特色ある講座をもっていること。実習が、大変重要な経験となっていること。
- ・ 意見を言い、聞くという作業は、自分の考えをまとめることにも、1人では生み出せなかった意見を生むことにもなる。他大学との交流は薬学部内でも大切。

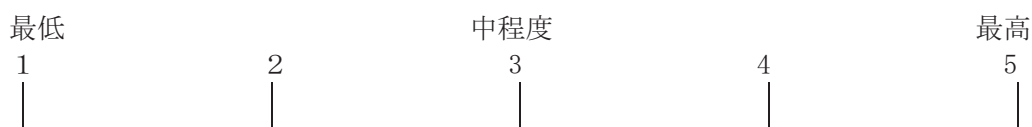
#### 6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか？

- ・ それぞれの大学の違いが多すぎて、まだまだ知らないことが、たくさんあります。
- ・ “勉強の機会”は、確かにもらえたら有難いですが、それを自分で切り拓ける人達が育っていかれたらもっと良いし、自分もそうなりたいと感じました。
- ・ それぞれの実習での差異をなくすということは、実習を受ける側にとっては大事だが、その施設によっては、その「色」がなくなってしまうこともあるから難しい。
- ・ 薬学部というものの自体の議論が、まだ足りていないなと思いました。
- ・ 学生側の意見は、たくさん聞くことが出来ましたが、薬学会の方々、先生方、行政の方々が、薬学教育についてどのように考えられているかもお聞きしたかったです。
- ・ 自分達が“やり残したこと”と、“今後やってほしいこと”が、混ざりがちでした。自分が直接話すことができなかった人の意見を知りたかったです。
- ・ 有機合成の実験など基礎実習を行わない大学があるとのことだが、カリキュラム上、可能なのだろうか。
- ・ 他のグループの発表について、どのようなプロセスで出てきた内容なのかを知りたかった。時間的に難しいとは思いますが。
- ・ 他大学の実習の仕組みや、国試対策など様々で、どんなふうなのかをもっと知りたいと思った。
- ・ 今回（前回）のワークショップが、どのような形で生かされるのか？
- ・ 薬学部の研究が、臨床研究にシフトする、又は、その方が良いという意見。視野を広く、又は、大学では深い研究ができるから、臨床に限らない方が良いのでは？と思う。
- ・ 今日出てきた問題を、解決する手段についての討議が少なく、自分達の手で解決するための糸口が見つけられなかった。
- ・ みんなの将来のビジョン。これが分からないから、他の人が、どういう会話に興味があるのかわかりづらかった。
- ・ 大学でやり残したことを、どこまで大学に求められるのかということ。

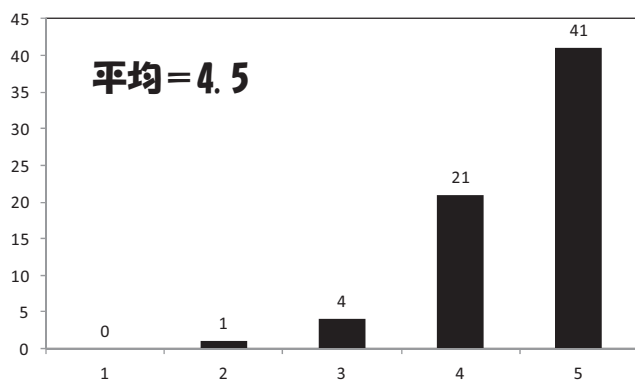
## 7. その他のご意見（ご自由にお書き下さい）

- ・ いろいろな大学の話が聞けて、すごく楽しいです。これから、もっともっと交流したいです。
- ・ 普段、他大学の学生と交流する機会がないので、とてもいい経験になりました。
- ・ 貴重な経験、機会を頂けてありがとうございます。もっと、同期の薬学生にも経験して欲しいと思いました。
- ・ 時間に追われている感じがして、少し忙しかったように思う。
- ・ もう少し討議時間が欲しいです。ちょっと時間が足りませんでした。
- ・ とても楽しいので、明日も楽しみです！
- ・ 色々な大学の人の意見が聞けて、面白かった。
- ・ グループの皆が、すごく積極的で驚きました。
- ・ 知らない人ばかりで楽しかった。
- ・ 明日もいろいろな方々の考えを知りたいです。
- ・ たくさんの面白い意見が聞けて楽しい！！
- ・ 楽しい！！来て良かったです。進行も、適度な忙しさが良いです。
- ・ 今日話せなかった議題・テーマを、明日話せると嬉しく思います。
- ・ タスクフォースの先生が、良いサポートになる時も、半分誘導になる時もあると思った。
- ・ 話が行き詰まると、タスクフォースの先生が助け舟を出してくれて、良かったです。
- ・ 時間がぎりぎりでお手洗いにも行けない。
- ・ スケジュールがタイトすぎて、トイレ休憩をしにくいのが悩み。
- ・ コーヒーブレイクをもう少し長くして欲しい。
- ・ グループ以外の人ともコミュニケーションを取りたかった。
- ・ 私の大学の薬学部は、人数も少なく、なかなか多くの人と関わる機会がないので、今回のように、全国の薬学生と集まる機会はとても貴重で、本当に楽しませてもらいました！
- ・ 臨床の現場で、活躍できる薬剤師を生みたいのは分かるが、まだ迷走している部分がある。
- ・ ワールドカフェのように、気さくに話せる場は良かった。
- ・ ワールドカフェでの討議が楽しかったです。
- ・ **World café** の様なグループをシャッフルしての討議がとても楽しく、刺激を受けました。
- ・ 色々な人と会話するのは、とても楽しいです。ワールドカフェだと、他のグループとも話できてよかった。
- ・ **KJ** 法以外にも、**World café** などの新しい手法を体験できて、楽しかったです。
- ・ 最初は緊張しましたが、**SGD** では、うまく溶け込めたかなと思います。安心しました。**SGD** の討議方法も色々分かりました。
- ・ とても楽しかったです！泊まりだと、じっくり取り組めてよかったと思います。
- ・ 色々な大学の人の意見を聞けて、とても興味深かったです。国立と私立のギャップなども聞けたので、勉強になりました。
- ・ みんな意見を活発に発言していて、感動しました！深く考えているなと感心しました。有意義な討論ができて、楽しかったです。
- ・ 他大学の方と話せて、とても良い刺激になった。みんなの目指すレベルが高いので、自分も“これから”一層頑張ろうと思った。
- ・ 今回話し合った内容は、実際、反映されるのか？
- ・ 絵を描いたのは、人を覚えるのにもよかったと思いました。

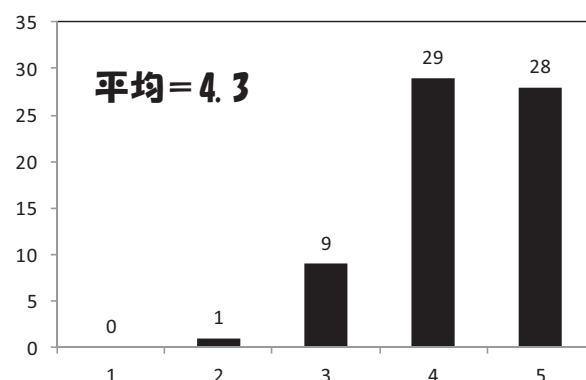
## 第2日目の評価



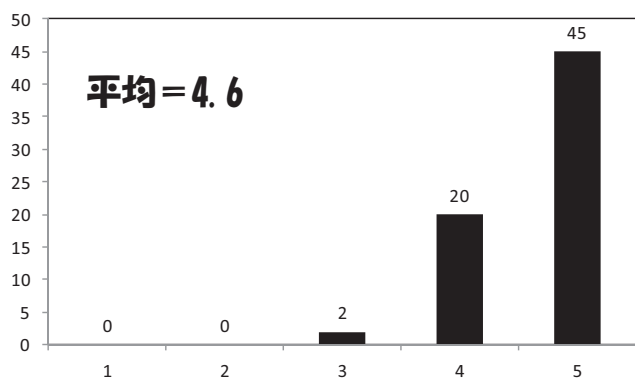
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



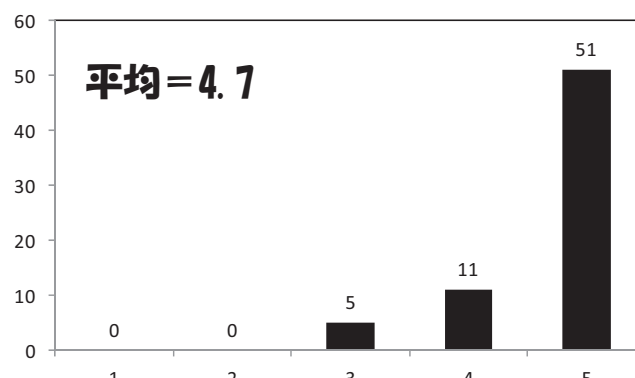
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容はあなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事は良かったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。(抜粋)

- ・ 大学に求めること、薬学教育に求めること、将来やるべきことが、それぞれ明確に表現されていて良かった。
- ・ それぞれが何を大事に思っているか、将来に対しての視点が話し合えた。自分の仕事に誇りを持ち、それを様々な人に伝えていくことの大切さも分かった。また、I、II、III全てのチームで出てきた意見を聞いたのも良かった。
- ・ 全体討論では、グループ以外の広い範囲で意見交換ができ、より有益な情報を取り入れられたように思う。最後の発表では、全体的にまとまった意見として、どのグループも共通した部分があったと思う。そのことから、目指すところ、不満に思うところは一緒（共通するところがある）なのだと感じた。
- ・ 学生の熱い気持ち。                      ・ これから目指す薬剤師像。                      ・ 学校間差。(良い意味&悪い意味)

- ・ ディスカッションでできなかったグループも、同じようなことを考え、また、違った目線で考えていることが分かった。皆とてもアツい思いを持っていて、感動しました。
- ・ 現在のコアカリと学生の思いのギャップがあり、今回、このような機会を設けていただいたことで、少しでもギャップが埋まるよう、近づけることが出来ると感じた。
- ・ お互いの目指しているもの、将来の職業選択の大切さ。
- ・ 皆、薬学教育に対して、色んな思いがあるんだなと思いました。
- ・ これからの薬学教育、今後の自身の発展を、皆が真剣に考えていること。少しずつ違うけれど、同じような思いで、薬剤師として伸びていきたいと思っていることがわかりました。
- ・ 他学生の熱意に、自身のモチベーションが大きく上がった。色々なディスカッションの中で、発言する時間こそなかったが、自分の考えとも向き合えた。
- ・ 多くの人が、薬学教育の「すそ野」を広げて欲しいと考えていること。臨床能力の向上のための教育を望んでいる人の意見を、後で個人的に聞いてみたい。
- ・ これから自分が何をしていくべきか、明白になった。
- ・ 卒業後、様々な道へ進む学生が、どのようにこの先成長したいかを、どう考えているか知ることが出来ました。
- ・ ただ臨床で求められるスキルを、身に付けられるよう努力するだけでなく、+αの教養や他業種理解など、知識を生かす知恵を身につけることが重要だとわかりました。
- ・ 6年制の薬学生は、単なる薬剤師を目指しているのではなく、+αを今から目指している、本当に意識の高い人が多い。
- ・ 6年制薬剤師として後輩に伝えること、世間に薬剤師を知ってもらうこと、そして、他職種と連携することを、みんな重要視しており、やはり6年制創成期の薬剤師として、卒業後は、そこに力を入れたいと思いました。
- ・ 「6年制薬学教育」を出た私達が、何をすべきなのか改めて考え、みんなで具体例を挙げたことで、残り8ヶ月しかない学生生活も、1日1日大切に、日々進化しなければならないと感じました。
- ・ 私達が社会に出たときに、何をすれば良いかを改めて意識することができた。これが、自身のモチベーションとなるように、今日の学びを大切にしていきたい。
- ・ 患者に対する QOL を上げるために、EBM だけでなく、NBM といったことも考慮して行っていくと良いという点は、初めて知り、納得しました。また、実習に行ってからではなく、その以前の体制についても、変更していくことの重要さがわかった。
- ・ NBM：患者さんの物語に基づく医療という考え方があることを知った。地域の保健衛生に学生が関わっていくのは、良いと思った。
- ・ 参加している全員が、意識が高く、自分が思ってもみない意見が出たり、言われて改めて気付いた
- ・ 6年制薬学教育になって、私達がすべきことは何か、どういう社会的ニーズがあるのか考えることが出来ました。自分達が目指す薬剤師像、そして、そのためには具体的にどう行動していくのかという、それぞれの将来ビジョンを知ることができたことも、とても良かったと思います。
- ・ 6年制に対する全員の熱い思いを知れて、良かったです。こうして、各大学ひとりずつ代表が参加して思いをディスカッションすると、「薬学部生」として共通の認識から、大学ごとの差(教育の質)まで見えて、それを通じて相互理解を深めることができたと思います。



- ・ 同期の学生が、どのような現状に身を置いていて、今後どのようなビジョンを持っているのかを、理解することができた。
- ・ 全体討論を通じて、他大学の皆の意識の高さ、将来に対する見通しの高さがわかり、とても刺激になりました。
- ・ 6年制2期生の私たちは、不満の出るような教育を受けてきたかもしれないと、気付いた今がスタートライン。何が良くて、何が悪いか判断できるのは、未来の自分であり、未来の自分は、今これからの自分で変えうる自分なんだなあ…
- ・ 6年制薬学部の2期生として、今後の医療体制や、後輩の育成のためにも、自分達がパイオニアとしてしっかりとした道を示したい。
- ・ 周りのみんなのモチベーションの高さに、刺激を受けました。自分達が、6年制の卒業生として、パイオニアになるんだという強い気持ちを持つ大切さを学びました。
- ・ コアカリの話など、とても勉強になる切り口が見られて、とても勉強になった。自分の持っていない考え方をもつ仲間と接していけるのは、とても楽しく有意義で、気力をもらったと思う。進路は違うかもしれないが、薬学の一員として今後も交流を持ち、互いに高め合えたらと思った。
- ・ 集まっている学生一人ひとりが、高い問題意識とモチベーションを持っていて、本当に薬学教育や、薬学界を変えたいと考えていること。良いメンバーというのは、このような場に集まるのだなと実感した。
- ・ みんなが、後輩の教育にまで言及していたこと。薬学に対する熱い思いを感じた。
- ・ 熱いところざしを持った仲間が、たくさんいること。色々な意見を持った人がいること。
- ・ 普段、周囲に MR、治験、行政などの進路に進む人が少なく、話を聞く機会がなかったが、これらの進路に進む人の話を深く聞いた。
- ・ 自分が非常にミクロ的な視野に偏り過ぎていることを感じた。II C 班の“薬薬薬行学連携”というキャッチーな表現があったが、まさに理想とするものではないかと思い、共感した。
- ・ このワークショップに参加した学生のモチベーションは高いと、実感しました。この情熱を縦にも横にも（世代として）広げていけると、薬学の未来は、より明るいものになると思いました。
- ・ それぞれの進路と夢が、たくさんあることが分かった。薬学部にはたくさんの道（進路）がある。けれど、皆、根本の気持ちは同じである。
- ・ SGD のメンバー、全体のメンバーは、それぞれ熱い思い、高い志を持っていることを改めて確認出来ました。自分も頑張って、次に会う時には、みんなに刺激を与えられるような存在になっていたいです。
- ・ みんな、薬剤師という職業に、高い理想を持っていることが分かりました。
- ・ 制度について、また、志を同じくする人達の考えを聞いて良かったです。
- ・ 同じ教育を受けているのに、それぞれに感じていること、やりたい事が、大きく違った。しかし、皆向いている方向が同じだった。
- ・ 広い分野・知識を持ちたいと、ここにいる皆が高い意識を持っていること。意見を聞くことで、薬学教育の方向性（形？）についても、理解が深まった。
- ・ みんな、やはり、不満をもっていて、それが私と同じものもあり、自分と同じ考えを持った人もいるということが、理解できた。

- ・ 実は、場所や学校は違っていても、この場所に集まっているメンバーは、同じ向上心と、熱い気持ちを持っていて、感動しました。

## 6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか？（抜粋）

### （6年制の意義）

- ・ 本当に6年必要か、という根本を話し合ってみたかった。
- ・ 6年制だから現場で何が出来るか？ということについては、あまり意見が多くなく、やはり、これからの課題として、6年制の意義をよりはっきりとさせる必要はあるのかなと思いました。
- ・ 6年制薬学教育の意義が、わからなくなるばかりでした。「何を目的にして、6年制となったのか」と、「現在の体制」が、一致しているといえない点が、あったと思います。
- ・ 6年制と4年生の違い、大きく変わったこと、また、それによって、どういった影響がでたかというのを、もっと具体的に話して、理解を深めたかった。
- ・ 最後に、「6年制薬剤師はベースを増やすか、それともタテにのぼすか」という話がありましたが、納得しつつも、自分の意見、考えがまだボンヤリしているので、改めて考えなければならないテーマであると感じました。
- ・ すいません。コアカリのための、謎のピラミッドはよくわかりませんでした。なのに、雰囲気を手を挙げました（恥）。上に昇ると狭くなるのかなーとか、いまひとつイメージが多かめませんでした。もっと考えてみますね。
- ・ これからの6年制教育に関するアイデアが多く、どの意見も良かったので、考えをこれからまとめたいと思います。

### （学生自身について）

- ・ やはり、教育現場に求めることが多いこと。自分の努力、こころざし等、自らを変えていこう！という意見も、もっと多く聞けたら良かった。
- ・ 実習の施設間の差を問題にしていたこと。施設に文句を言うばかりで、学生はその改善に努めようと全力で努力していたのか？
- ・ なぜ、薬剤師の資格がなくても働くことができる仕事に行きたいのに、薬学部に入ったのか等、薬局、病院以外に進む人の、大学への望むことが大きいのは、少し理解に苦しんだ。
- ・ 全ての薬学生が、同程度の高い意識を持っていないかもしれない。→どうやったらそのモチベーションを高め、今後の薬学業界に生かしていけるのか。（←少し、今回の最後のディスカッションでは、内容がずれているかもしれません）

### （具体例について）

- ・ 薬学教育カリキュラムに対し、意見を言うだけになってしまったかもしれない。具体的に何を考え、何を取り入れるべきか、討議を深める必要があった。
- ・ 各大学で、薬学教育に望むたくさんの要望はあったが、具体例などが弱い印象だった。
- ・ 大学や実習先等に、多くの要望があったが、具体的な改善方法など。
- ・ 行政と薬剤師が、具体的にどのように関わっていけば良いか、どのように動かしていけば良いか。
- ・ 質問にもありましたが、「薬剤師として、もっとアピールしたい」と言った時に、具体的には、どのような取り組みをしていきたいと考えているのか、もっと知りたいと思いました。

(コアカリ改訂について)

- ・ 必須項目を減らす→進路に沿った講義が出来るようにするのは、場合によっては不安因子になるのではないか。例えば、学年後半で急に進路が変わる人もいるし、国試を受けることは、6年制であれば、全員であると思うので。
- ・ モデルコアカリキュラムの改訂なども含め、薬学教育の推進のために、具体的には何を変えていくのか、まだはっきりとしていませんが、その部分が決まって、全ての薬剤師が理解できると良いと思いました。
- ・ コアカリキュラムでの弱点・充実している点と、実際の大学での講義は一致していない部分が多いと思う。

(大学間の差異について)

- ・ 大学ごとの差がなぜあるのか、原因と解決策をもっと話し合いたかった。各大学の特徴があるのは構わないのだが、ベースは均一化しないといけないと思う。個人的な意見としては、やはりコアカリに縛られすぎる体制に問題があると思うので、是非、この WS で学生から出た意見を教員や行政の方へ還元してほしいです。
- ・ 大学の授業に差があるのは仕方ない部分があるが、逆に強みの部分もあるはずなので、それをアピールしても良いのでは。
- ・ 薬学部における、基礎研究に対する考え方が、学校や学生によって、かなり違うのだとわかった。
- ・ 大学間の差はどうしてもあると感じたが、自分の行動などでも、多少は補えるとは思う。今回の場面に来れなかったメンバーに、いかに発信していくかも、とても重要な課題だと思った。
- ・ 国立大学の学生としては、私立大学のカリキュラムや実習内容などについて、イメージしにくいものもあった。

(学生以外の意見)

- ・ 時間の関係上仕方ありませんが、本ワークショップで見に来てくださった各部署の方々の、薬学教育、6年制薬学生に対する考え方や、期待するところを、お伺いしたかったです。学生→先生方への一方通行ではなく、学生⇄先生方で、討論したかったです。

(第四部について)

- ・ 将来身につけておきたいことをまとめるのは、範囲が広がってしまい、少し難しいと思う。
- ・ 第4部の時に、テーマの理解の共有に時間がかかった。もう少し具体的(?)に、テーマ設定していただけると、時間を議論に割けると思う。
- ・ 第4部は、非常にまとまりがありませんでした。

(第五部について)

- ・ 第五部の発表時間が短かったため、理解できないところもありました。もっと言いたいことがあったのではと思います。
- ・ 全体発表3分は、厳しいです。

(その他)

- ・ どこまで、この意見が反映されるのか。
- ・ 行政・企業やドラッグストアに就職する人の話がメインであったので、地方の病院には、薬剤師の末端(それこそ2人しか薬剤師のいない病院)の方もいるということを行政の方達に伝えたかった。

## 7. その他のご意見（ご自由にお書き下さい）（抜粋）

### （第五部と総合討論について）

- ・ 第五部で、総まとめができたのが、とても良かったです。
- ・ 第五部が、全ての集大成となっていて、一番楽しかったです。
- ・ 最後の部の SGD の時間を、もう少し長くとっていただけたら、ありがたかったです。一番のメインテーマを、もっと話し合いたいと思いました。
- ・ 特に最後の課題については、もっと時間を割いて欲しいと思いました。（テーマ自体も重い上、2つあるので）
- ・ 第五部のパワーポイントの操作も、学生が行ったほうが、タイミングを合わせやすいと思う。発表時間が短い。
- ・ 最終討論は、素晴らしかった。もっと時間があってもよかったかもしれない。
- ・ 全体討論の時間は、増やすべきだと思います。
- ・ 今日の総合討論の内容から、視野を広げる努力をしたいと感じました。

### （要望・提案）

- ・ このようなすばらしい機会を与えていただき、ありがとうございます。薬剤師にならない人も、もう少しいれば、偏りが少なく出来たかもしれません。
- ・ 薬学教育に望むことの所で、実習先の差についての意見が多くあったと思います。私の大学でも、色んな事がありましたが、ぜひ、指導薬剤師の先生に、受け入れられる意志と、時間的余裕があるのか、確認して欲しいと思います。
- ・ みんな実習の均一化を望んでいるが、何が最低限かという線引きは、難しいと思う。学生と指導薬剤師を交えての WS で生の声を届けたり、実習受入機関を評価していく（良い場所に、より多くの学生が行けるような）システムを作ったりしていくのも良いのでは。
- ・ 他職種・他学部と連携したいという意見は、やはり多いので、今回のワークショップのまとめを他の学部の方にも見てもらったり、逆に、このワークショップで、他の学部のワークショップの内容に触れたり、他学部と合同のワークショップでもしてもらえればと思います。
- ・ 薬学の今後を考えることができ、良い機会でした。今後もぜひ続けて欲しい！！
- ・ 長いようでとても短い内容だった。もっともっと話したいと思えた。今回はⅡというチーム内で交流することが多かったが、Ⅰ、Ⅲチームの人ともっと交流・議論ができるようになったらいいと思った。
- ・ 第一～四部の他のチームの意見も聞きたかった。
- ・ もっと、個人一人ひとりの考えを抽出して考えてみても面白いと思った。
- ・ 2日目も水が欲しかったです。
- ・ 今日は特に議論の時間が短かった。もっとみんなで議論したい！！
- ・ PC がマックだったので、操作が難しかった。発表時間3分は短いです。全体発表で、意見を述べたかったが、時間の都合で出来なかった。
- ・ 6年制教育に望むこと、学生からの意見はたくさん聞けたので、社会に出ている人の意見というのも、聞いてみたいと思った。
- ・ 参加者全員の考えをもっと聞けるような時間が、もっともっと欲しかったです。

(ワークショップの感想)

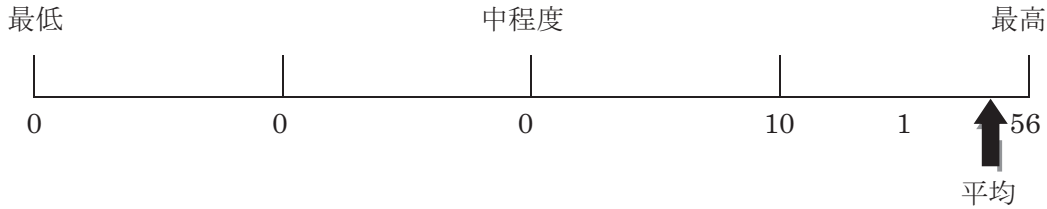
- ・ このワークショップを通じて、幅広い交流ができ、仲間と真剣に話し合える場に参加できたことを、本当に良かったと感じています。2日間で得たことを大学に持ち帰り、ぜひ、大学の仲間や先輩にフィードバックできたらと思っております。このような機会を作っていただき、本当にありがとうございました。
- ・ 本当に素晴らしい機会だった。また数年後、同じメンバーで集まり、今との違いと、変わらない想い等を語りたい。
- ・ 他の人の考えが聞けたのが、有意義であった。
- ・ いい刺激をもらいました。
- ・ 2日目も、たくさんの意見を聞くことが出来て良かったです。これが、これからの後輩に、どれだけ反映されているかが楽しみです。
- ・ 「何の目的で、何をするのか」を、はっきりイメージして、一人ひとりが卒業後に取り組んでいくことが大切だと感じた。
- ・ 司会として、時間内に話をまとめる難しさを実感しました。
- ・ 司会をやらせて頂いたのですが、時間配分が上手く出来ず、他グループに迷惑をかけてしまったのが、心残りです。
- ・ 今日は特に白熱した議論がされ、多くの方の様々な角度からの意見を聞くことができて、良かったと思います。
- ・ 5年後、10年後が楽しみです。
- ・ 自分達は、生涯勉強という覚悟を持たないといけないし、それに、大学や実習施設は応えてほしいと思った。
- ・ 一人ひとり異なった考えや意見を聞いて、学んで取り込むことが出来て、とても充実していました。
- ・ あまり、発言するのに慣れていなかったなので、総合討論時に、手を挙げる事が出来なかった。皆さんの熱意がすごい。
- ・ 帰りの時間を考えてのことではと思うのですが、もう少し遅くまで行って欲しかった。
- ・ 昨日よりももっとスムーズに、また、内容の濃いSGDが出来ました。
- ・ タスクフォースの先生、色々お話ししていただきありがとうございます。これからもこの会を続けてください。
- ・ もっと時間が欲しいと感じました。
- ・ このワークショップでの成果を、必ず将来へ活かして欲しいと思いました。
- ・ 本当に有意義なディスカッションができ、昨日、今日と充実していました。



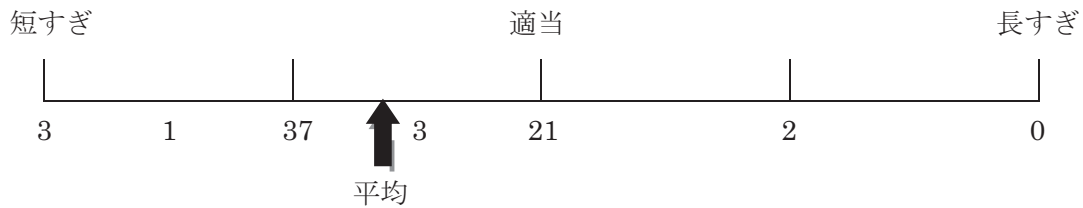
## ワークショップ総合評価

1. 今回のワークショップを全般的に評価してください。

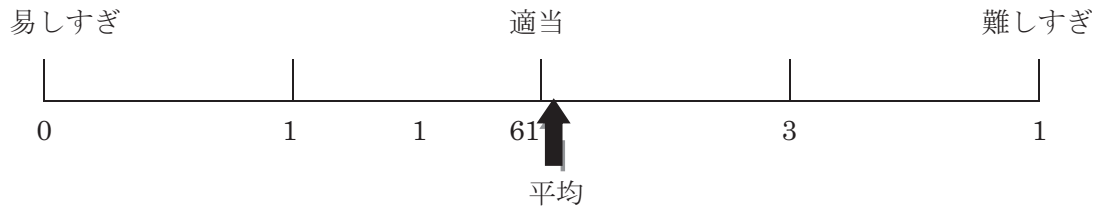
1) 内容の価値について



2) 内容に対する時間について



3) 内容の難易度について



4) このようなワークショップを継続することについて

必要ない (1)                      どちらでもよい (0)                      ぜひ必要 (66)

2. 今回のワークショップでよかったと思われることをお書きください。

- ・他大学の学生と交流でき、大変よい刺激になった。
- ・様々な人の考えが分かったし、進路も本当に様々であるとわかったこと。SGD の内容について、そこから明確な関係性を見出したり、順番をつけることは難しかったが、それを考えると、内容も掘り下げることができた。繋がりもできた。
- ・他大学の仲間と意見交換をする機会がなかったので、貴重な時間だったと思う。1日目の夜の情報交換では、個人個人の夢や、取り組んでいきたいことを聞け、自らのモチベーションが上がったように思う。
- ・他の大学では、どのようなことが行われているのかを、知ることができた。今まで、自分の中では思いつかなかった考え方や、アイデアをディスカッションから得ることができ、視野が広がった。
- ・たくさんの人との交流。自分の考えにはなかった、新鮮な意見が聞けた。
- ・大学によって特色があり、自分の大学の良いところ、悪いところを、改めて感じることができました。普段、こんなに意見を持った学生ってあまりいないので、刺激になりました。

- ・非常に意識の高い人達の話の聞き、自分も、もっともっと頑張らなければと思えた点。
- ・日本全国の様々な大学の学生が集まることで、皆の意見を聞くことが出来て、視野が広がった。将来進む道は違っても、“薬剤師という職業、薬学部での6年”を、よりよいものにしたいという考えは、同じだと感じた。とても刺激になった。
- ・まだまだ6年制になって、制度が充分であるとはいえない中、理想の形に作り上げていくために、学生の意見を聞いてくれる場があるのは、非常に良いことだと思った。
- ・全国の大学から、違う背景を持つ人々と交流でき、最終的には全員の気持ちが一つになり、同じキモチと時間を共有できたこと。
- ・他大学の現状を知ることでの、自大学のプログラムの位置付け。
- ・今まで大学内の価値観しか知らなかったもので、驚きの連続で、自分がいつの間にか、固定概念を持っていたことに気付かされました。連携という、OT、PT、Ns、Dr等との関係ばかり考えてしまいましたが、薬剤師間でも職種によって様々であり、刺激を与え合える関係であると感じました。
- ・他大学の学生と、交流を持つことが出来た。色んな思いや考え方を持つ人がいて、自分の足りない部分や、もっと頑張らないと、と思うことが出来た。
- ・他大学のひととたくさん触れ合えるよう、配慮されていると思った。
- ・多くの方と交流できたこと。泊りがけ！
- ・たくさんの人と出会って、色々な視野を教えてもらいました。自分に足りないもの、自分が誇れるものを見つけられました。これからの薬学部、薬剤師を変えていく(?)人達と話せて、自分もやらなければならないことを見つけられた気がします。
- ・大学のレベル、地域を考えた班分けであったこと。薬剤師の免許を使わずに働く人もいる等、色々な意見、考えに幅があったこと。
- ・時間を決め、だらけずに取り組めたのが良かった(短いと思うが)。「何をしたい」という意見がたくさん聞けて、違う価値観に出会えて良かった。
- ・第五部は本音でディスカッションできました。日々なかなか言えない問題点を、仲間と共有することで、改善策の提案まで行うことが出来ました。
- ・自分の大学の学習内容や特色等を、学外の視点から見直せる、とてもいい機会となりました。様々な内容を討論することにより、6年制の良さを再認識できました。
- ・同期の学生の方々の、モチベーションの高さに触れることが出来た。今後、自分が働く上での指針を形成する助けとなった。大学にも還元したいと思う。
- ・全国の色々な考えや、価値観をもった学生と意見を交換することができ、とても勉強になり、良い刺激になりました。共通の意見や、自分では気付かなかったこともあり、貴重な体験になりました。
- ・他大学の薬学部生が、一つの場所に集まって意見交換をすることは、モチベーションのアップにもつながり、大変有意義なものだと思ったので、是非続けて欲しいです。2泊でもいいと思います。
- ・他の薬学部生と交流でき、自分の大学の良いところ、改善した方がいいところを知ることができた。また、学生同士のネットワークができ、考えが広がった。
- ・2日間という日程で、与えられたテーマだけではなく、自分の熱い思いを語り合う時間があったことが、とても良かったと思います。特に夕食後は、熱く語り合うことが出来ました。
- ・泊りがけだったこと。皆と仲良くなれて嬉しかった。人生最後の修学旅行のような気分になれた。

しかし、内容はただの旅行ではなく、若者の夢と希望が詰まった熱い暑いディスカッションであり、この出会いと企画に感謝である。

- ・全国各地の国立／私立が集まっているため、他大学の状況や、自分の大学の問題点を考えることが出来た。泊まりであったため、夜遅くまで自分の意見を述べたり、様々な考えに触れることができた。ワールドカフェという、初めてのディスカッション方法を知ることができた。
- ・生涯、連携（関わり）を深めていけそうな仲間、同志が見つかった。私達みんなが、力を合わせて薬薬薬行学連携をすすめれば、薬学を変えられる気ができると思えたこと。又、自分とは異なる考えをもった人の、考えの根拠を知れた。
- ・熱心な学生が集まることで、普段から考えていても、大学では言えないようなことが議論できること。「こういうことを考えているのは、自分だけではないんだ！」と、わかり、大変心強く、また、今後の自分のモチベーションにもつなげることができたと思う。また、全国に友人ができることが、純粋に嬉しかった。
- ・各大学の代表として集まっているだけあり、熱い人が多かった。自分は大学でこんなに活発な意見交換をしたことはなかったので、とても良い刺激になった。
- ・他大学の人と、交流・情報交換できてよかった。普段自分が考えていることよりも、さらに上、また、全く違った意見などが聞けて、とても参考になり、よい刺激をもらった。
- ・他大学の教育状況や、考え方、文化の違いに触れ、視野を広げることができたのが、とてもよかったと思います。また、1泊2日という期間で、他大学の学生と、深いつながりを築くことができました。
- ・他大学の学生とお話することで、6年制教育の内容の良い点、悪い点を再認識することができたことです。二期生として、まだまだ教育内容が定まっていないと感じる一方、各人が身につけた能力は共通していることも感じました。今回でてきた改善点が、明確になっていて良かったです。改善点が反映されて、より良い教育内容になると信じます。
- ・色々な価値観に触れることができたこと。色々な大学の現状が見られたこと。仲間、繋がりができたことが、とても良かった。
- ・様々な意見を持った人と討論できて、視野が広がりました。皆それぞれが、アツイ気持ちを持っていたので、自分のモチベーションがさらに上がりました。
- ・同じ6年制薬学部の、意識の高い全国の学生と真剣に討論できて、とても勉強になったし、今後のモチベーションも高まった。
- ・全国から学生を集めることによって、大学や地域での考え方の差や、教育の違いを知ることが出来ました。加えて、「現在の5年生に対して何を伝えたいか」という題を考える過程で、自分が残りの大学生活をどのように過ごしたいか、卒業後にどのような薬剤師になりたいのか等、自分の考えや理想を再認識できたことが、大きな収穫でした。
- ・前年度と異なり、泊りがけとなったことで、グループメンバーと、より深く仲良くなれたと思う。人脈が広がった。一期生の社会人や大学院生と話す機会を持てたことで、将来のイメージがつかみやすくなったと思う。
- ・他大学の学生と意見を交換することができ、同じ志を持つ人、進む道は違っても、根幹にある考えが同じであることが分かるだけでも、とても有意義な会と思いました。
- ・1泊2日、交流の場に対する配慮。World café。

- ・ World café や、KJ 法等の方法。発表の題など。
- ・ 様々な問題点を共有できた点。
- ・ 全国には志の高い学生さん、ディスカッション、プレゼン能力の高い学生さんがいて、SGD がすごく充実したものになった。就職先の異なる学生と友達になれ、今後のつながりが増えた。タスクフォースが、SGD の軌道修正をしてくれたり、時間を注意してくれたのが良かった。食事や交流会（オリンピックも）を通して、フランクな付き合いができた。
- ・ 国公立や私立の学生が、全国から集まって討論できたこと。World café という、新しい方法を体験できたこと。
- ・ 様々な人の意見や考えを知れたことや、6年制の卒業生として、より良くしていきたいという強い気持ちを持った人に出会えたこと。
- ・ 全国の大学から集まり、各大学の特徴などを含め様々な意見を聞き、討論でき、とても良かったです。
- ・ 他大学と熱く薬学や薬剤師としての将来について考え、語る機会があって、本当に楽しかったです。自分を見つめ直すとても良い機会になりました。ぜひ、来年以降も続けていただきたいです。
- ・ 他大学の学生との交流を通して、自分の大学における教育の長所・短所に気づくことができた。これまでの教育に満足するのではなく、視野を広げて研鑽を重ねる必要性を感じられて良かった。
- ・ 全国各地の地域性や、大学の特色を聞くことができた。特にワールドカフェでは、色々な大学の良いところを聞いて、羨ましく思えた。実習後のアドバンストや国公立大の国試事情といった良いところ、悪いところを聞いてよかった。
- ・ 他大学の人の話を聞いていると、皆様、薬学の教育について熱い思いを抱いていることに驚かされました。日頃、自分がぼんやりした不満を、大学側、あるいは自分自身に持っているながらも受け身でいたり（自分のことなのに！泣）、それでよしと甘やかしていたことに気づかされました。他の人の思いを聞いて、すごいなとも思ったし、私ももっと薬学教育や自分の大学について、働きかけられるんじゃないかと感じることができました。
- ・ 他大学の教育内容を知ることができた点。自分の受けていた教育について、見直すことができた点。同期と出会えた点。
- ・ 全国の同期の学生と、意見交換することができたので、私自身の考えの幅が広がった上に、さらなるレベルアップ（考え方・意識の面で）が出来たのが、良かったと思います。また、問題意識を共有し、一緒に考えたことは、将来につながる有益なことだと思いました。
- ・ 自分は薬剤師以外の道に進もうと思っていたので、少し引け目のようなものを感じていたが、色々な進路があることが分かり、スッキリした。自分の大学のことが、好きになった。
- ・ 他大学の方の意見を聞いて、自分と同じ、又は、異なる意見を聞いたこと。また、意見を聞いたことで、さらに自分でも考えなければいけないと、刺激になった。このような機会があったら、どんどん参加したいと思う。
- ・ 同学年の考えていることは、同じこともあれば違うこともあり、視点の違いで出てくる結果が大きく変わってくることに、エキサイトしました。様々な意見、将来の夢を交換することで、大変刺激を受け、又、与えることができたと思います。楽しいです。
- ・ 他の大学の人と話せたこと。泊まりで行ったこと。同じようなことについて、疑問を持っていたことを知った。他の大学では、どんなことをやっているのかを知れた。先輩の生の声を聞いた。

- ・ 各人考え方は異なるわけであり、グループワークにて結論を出すのは、とても難しかったです。しかし、その分、自分と同じような意見、異なる意見、不満、賛同 etc.を聞くのは、とてもためになりました。
- ・ 医療関係の学部は、文系に比べると、どこか周りとの関わりをあまり積極的に持たないところが多いと思うのですが、その中でも、単科は本当に孤立している感がありました。同じ職業を目指すとはいえ、他県、総合大学の話聞いたのは勉強になりました。また、地元の話聞くことができ、自分の話の引出しも増えた気がします。
- ・ 他の大学の薬学生と交流することができて良かったです。6年のこの時期に開催することで、残りの学生生活をもっと充実させたいと感じることができました。ぜひ、このようなワークショップの機会を増やして、薬学生のモチベーションの向上につながるといいです。
- ・ たくさんの意見が聞けて、とても刺激になった。全てのディスカッションが、最終的なテーマにつながっていて、スムーズに取り組みながらも深く話し合いができた。ワールドカフェがとてもよかった。
- ・ 懇親会やコーヒブレイクなど、多くの人と話す機会があったこと。自分以外、他大学の人の意見を知ることができたこと。
- ・ 全国様々な大学（地域）の方の話、考え方に触れて、とても勉強になった。ディスカッションをすることの楽しさ、意義を再確認した。
- ・ 今まで自分しか疑問に思っていないのかな？と、思っていたことが、実際は色んな方が同じ疑問を持っていて、これからの問題点や課題を理解し、将来に進む力がついた。
- ・ これまで他大学の方と一同に会して交流する機会がなかったため、貴重な経験となりました。意識の高い皆さんから刺激を受け、これから頑張っていきたいと改めて感じました。
- ・ 各大学の特色や、問題点等を知ることができ、それについて一緒に考え、さらに深めていくワークが面白かった。こういった機会はほとんどないと思うので、本当に良かったと思う。
- ・ 他大学の学生と積極的に意見を交換できた点。本当に参加して良かった。
- ・ 第1セッションから第5セッションまで、うまく誘導されて、少しずつ深いディスカッションができ、最後の6年制教育に求めることやこれからのことは、より自分の考えを深められることができました。最初から本題に入るのではなく、少しずつ入っていったからこそだと思います。

### 3. 今回のワークショップの問題点と思われることをお書きください。

(グループ分け)

- ・ 同じグループで2日間行ったので、違うグループで討論したかった。しかし、情報交換会という形で、多くの人と、会話・ディスカッションできて、面白かった。
- ・ グループ分けを、もっとたくさんの人と話せるようなものにしてもよかったのではないかと思います。
- ・ 仕方ない面もあるが、私のグループは、臨床志望の人が多く、意見が偏ったきらいがあったので、メーカーや、進学の人もいると多様な意見が聞けたと思った。オリンピックで寝不足(笑)。
- ・ グループが固定されていたので、もっとばらけても良かったと思います。
- ・ 強いて言えば、もっと長く議論したかった。1日目と2日目で、グループメンバーをかえてもいいかも…



- ・ I, IIIとも交流できる機会はあったけれど、1～4部の内容も知りたかった。
- ・ I, II, IIIチームに分かれていて、他チームの学生の考え方を伺う機会がほしかったと感じました。例えば、テーマごとに組み合わせをシャッフルする等の工夫があれば、より嬉しかったです。
- ・ 他のグループ（I, IIIチーム）とのディスカッションが少なかった。ローテーションでもいいのかも。時間に追われることが多かった点。
- ・ 同じグループの人達とは、仲良くなり意見も言い合えたが、他のグループ、特に他のチームの意見を聞く機会や、話す機会が少なかったと思うので、入れかえる等、工夫できればと思った。
- ・ I, II, IIIチームでの交流が少なかったなので、シャッフルするのも、ありだと思います。全国だけでなく、各地域ごとに行ってもいいと思います。
- ・ もっと多くのことを、話してみたかった。全体的にせわしなく、じっくり会話する時間が欲しい。他のチーム（I, II, III）の人と、もっと交流したい。
- ・ 時間的に難しいかもしれないが、他のグループと、もっともっと話したかった。

(時間)

- ・ 少し時間が短めであると感じた。
- ・ やはり、時間がきつきつで、忙しく感じた。トイレ休憩が欲しい。
- ・ 全体的に、発表の時間が短いように感じられた。
- ・ たくさんの思いがあるので、発表時間が3分とかだと短い。
- ・ 発表時間を、5～6分とる必要があると感じました。
- ・ 掘り下げて話したい話題もあったので、少し時間が短いかなと思いました。あとは、テーマの意味、受け取り方が、少し違ったりしたときがあって、やりにくいことがありました。
- ・ テーマによっては、時間が足りないものもあったので、まとめたりする時間をもう少し欲しかった。
- ・ 朝が早い。
- ・ 討論の時間が短く感じました。特に最後2つのテーマについては、“6年制薬学教育”という視点から、はずれがちで大変でした。
- ・ 課題に割り当てられた時間が、短いと感じることがありました。
- ・ 考える時間が短いと思うこと。それだけ集中しているということなのかもしれませんが…。
- ・ 少し1つ1つの時間に、余裕がなかったように感じます。
- ・ 内容が盛りだくさんなのは悪くないが、1つの議論に対し、1人の学生しか意見が言えないくらい、時間がおしているのはもったいない。総合討論を先生も交え、もっと長時間すべき。
- ・ 発表時間（特に第5部）は、短すぎます。全体討論で、現状や課題を共有する必要があります。
- ・ 各ワークショップの時間が、少し短く感じたので、討論の内容を1つ減らしてもいいのではないかと感じました。
- ・ 時間に余裕がなかった。1つのテーマの時間を、のばしても良いと思う。
- ・ 議論の時間は、やはり短いと思いました。もう少し10分だけののばしてもらえたらと思います。
- ・ 時間が短く、十分に討議できなかったの、行程に余裕を持ちたかった。
- ・ トイレ休憩が少ない！もう少し、自由にトイレに行ける雰囲気作りを…。まあ、トイレに行くのを忘れる程の熱いディスカッションでしたが。
- ・ タイムスケジュール的に、タイトであると感じた。

(SGD について)

- ・ もう少し、学生主体で SGD ができてよかったです。やり方になれるまでに、時間がかかっていたことも、一因だと思います。
- ・ 課題に対する成果物について、どう話し合っていくか方向性を決めたり、時間管理を出来る人が少なかったです。他学部の方々との WS では、もう少し深い議論が短時間で出来ます(就職等で経験)です。ですので、少しだけ、先生方のフォローがあっても良いかと思います(勿論、学生主体で議論が進むように配慮)。
- ・ 2日目にタスクフォースが介入しすぎた(自由な発想と意見が、妨げられた気がします)。
- ・ I, II, III 班以外の人との交流を持ちたかった。ワールドカフェ等で、討論してみたかった。
- ・ World café のような、他グループの人とのディスカッションが、もう少しやりたかった。
- ・ 可能であるならば、もっと他グループの人達と意見を交換してみたかったです。
- ・ ディスカッションや、発表の時間が短い。もっと深く話してもっと沢山の参加者と質疑したかった。

(プログラムについて)

- ・ 内容に対する時間が、短いです。内容については、妥当、かつ必要なものと考えますが、あの時間配分では、反対意見を出し、相手がどう考えているのか聞き出す時間がなく、惜しいと思いました。他の班はどうだったのか分かりませんが、感じた印象では、皆が意見を出し、同調し、まとめあげて、時間一杯という感じでした。
- ・ グループワークの時間詰め込みすぎでは、とも思った。1日1テーマくらいでちょうど良いかも。小休憩がほしい(トイレ休み…)。
- ・ 2日間でも、まだ話し足りないと感じました。もっともっと話したい!!という思いが、正直な気持ちです。また、低学年における、このようなワークショップの開催も期待しています。
- ・ SGD のスケジュールがタイトなこと。忙しかった、というのであれば、もう少し長く、深くディスカッションしたかったと考えている。ぜひ2泊3日にしてほしいです!
- ・ グループ外との交流が少なかったように感じた。もう少し朝遅いほうが、助かるかなーと思った。帰りの交通のことがあるとは思いますが…。
- ・ 第五部の発表時間を、もう少し長くとっていただきたいかったです。
- ・ トイレ休憩とコーヒブレイクを、もう少し多めに欲しかった。ほとんど問題点はなかったと思います。ぜひ継続して下さい。

(合同討議・総合討議について)

- ・ 学生側からの要望にばかり、目線が向いてしまっている気がする。薬学生として、“自分達には何が出来るのか?” “何をしなければいけないのか?” に、ウェイトをおく必要性を感じた。教育を受身にしてはならないので、討議も、もっと大切だと思う。
- ・ 第5部以外においても、総合討論できれば、よかったのではないかと感じました。

(全般について)

- ・ 薬学部の中でも、ほんの数%しかいない、医療機関の薬剤師以外の進路の人の参加が多かったと思う。実習や、コアカリについて考えるときに、とても偏ったため、なんらかの工夫が必要に思えた。
- ・ 私達は、かなり好き勝手話して、深めることができたのですが、このワークショップを通じて、先生方がどう思われたかを、少し聞きたかった。

- ・ 討論のスケジュールが、タイトであった。先生方の意見も、もっと聞きたかった。(今後、参考になりそうな意見を持った先生方ばかりだったので…。)

#### 4. その他の意見 (ご自由に)。

- ・ できれば、もっと多くの方が、参加できるようになってもいいと思う。
- ・ 熱い仲間と熱い討論が行え、本当に有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。
- ・ この度は、貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。残りの学生生活を有意義なものにすべく、何をしたらよいか、また、卒業後どのような姿勢であるべきかを、色々な方々の話を聞くことで、広い考えを持てるようになりました。
- ・ 今回のワークショップに参加できたことが、自分にとってプラスになることばかりで、楽しかった。ステキな機会をもうけて頂き、ありがとうございました。
- ・ I期生、II期生とも、質の高い人材が多くて、薬学部の間違って、まだまだ捨てたもんじゃないなと思いました。
- ・ この2日間で、自分の将来についての甘さを知ると共に、これからの行動次第で、もっともっと幅広いものになると感じました。
- ・ プレゼンの時間だったり、議論する時間だったり、時間配分の難しさを感じた。せっかく集まったので、今後も縦のつながりとして、このようなワークショップを続けてもらいたいと思う。
- ・ 他大学の人と交流できて良かった。全てを見てきた6年生の時だけでなく、早い学年で行うのも、一つの手だと思う。
- ・ **MR** として、皆と別の視点から医療に貢献する形の身ではありますが、とても参考になり、良い機会でした。是非続けていただきたいと考えています。
- ・ まじめな話だけでなく、地元自慢など、楽しい交流をたくさんすることができました。本当に楽しい2日間でした!!!
- ・ 今回、このようなワークショップに参加することが出来て、非常に有意義な時間を過ごすことができました。
- ・ 本当に来れてよかったです。先生方の温かさを、私も周囲、後輩にフィードバックして、日本の医療の未来に貢献したいです。
- ・ チームごとに意見の収束の仕方が、最後の発表で違っているように思えて興味深かった。1日目と2日目で、チームの編成を変えると面白いかもしれない(2回目は、IA、IIB、IIICでチームとする。など)。WSの内容を大学等に提供した後、それがどのようなインパクトを与えたのかについて、教えてほしい。
- ・ 毎年やっていただきたいですし、この会へ参加して下さる先生方も、幅広い分野の方がいて下さると、薬剤師としての発展も、何かアクションとなるのかなと感じました。
- ・ 本当に有意義な2日間でした。関係者の皆様、この様な機会を与えていただいて、ありがとうございました。
- ・ もっと多くの人と、意見交換(ディスカッション)が、したかった。
- ・ とても素晴らしいワークショップでした。開催していただいた先生方に、感謝申し上げます。10年後、20年後も、この仲間と付き合っていけると幸いです。

- ・ 難しいテーマが多くあったと感じましたが、チームの学生全員がどんな意見でも、まずは受け止めてくれるので、発言しやすい雰囲気でした。このような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。
- ・ 2日目の評価にも書きましたが、他の学部との連携を、このワークショップから始めてもらえたらと思います。
- ・ このようなWSは在学生、教員、卒業生全員に良い刺激を与えるものと感じました。このWSで得た考え方、知識をどんどん伝達していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ このような機会は、なかなかないので、今後とも続けてほしい。このような機会をいただいて、本当にありがとうございました。
- ・ 昨日、今日の思い、考えを、これからも持ち続け、社会に貢献できる薬剤師になりたいと思います。
- ・ ぜひ、今回のWSで出た意見を、今後の薬学教育に生かしてください。
- ・ 大学に戻ったら、このWSの内容を、後輩に伝えたいと思う。みんなから、とてもいい刺激をもらったおかげで、自分が目指す薬剤師像が、より深く、明確なものになった。
- ・ このような機会を設けてくださり、大変感謝しております。そして、自分がこのWSに参加できたことが、とても恵まれていると感じています。ぜひ、年に1回だけではなく、年に2回、3回と違うメンバー（学生）でやっていただいて、大学の同期に同じ体験を出来る学生がいれば、もっといろんなことが推進できるかと思っています。
- ・ 6年になって集まるのも良いが、ぜひ下の学年向けにも行ってほしい。6年と合同にすれば、後輩のモチベーションが、必ず上がると思う。この2日間は、とても貴重な体験だった。社会に出てからも、このメンバーと繋がって、“6年制すごいじゃないか！”と思ってもらえるよう、お互い努力できたらと思う。
- ・ 1泊2日のプログラムで、本当に多くの人、考え方に触れることができ、とても興奮しています。もっと話をしたいという思いがあるので、ぜひ、毎年開催してほしいです。
- ・ 昨日、今日出会えた友人は、一生大切にしたいと思います。ありがとうございました！！
- ・ これからも継続してほしい。また、薬のみではなく、医、看の人との交流を持ち、一緒にやれたらすごくいいと感じた。
- ・ 参加して本当に良かったです。参加者それぞれの進路があるが、自分は自分の道を一生懸命進み、アツイ気持ちを持った仲間の一人として、薬学を盛り上げていければ良いと思った。
- ・ 最初は何をするのかよくわからずに来たが、とても良かった。このような会が開かれていることを、学校や後輩にしっかりと、内容やいい点を伝えられるようにした方がいいと思った。
- ・ 心から、この会に参加して良かったと思います。二日間で非常に短く感じました。とても充実した二日間でした。来年も必ず開催して欲しいです。
- ・ 6年制卒業生の話を、大学学部2～3年生に聞かせてあげたい。
- ・ グループに限らず、色々な人と関わって楽しかったです。
- ・ 去年は日帰りということだったので、一泊二日でできて、良かったと思う。
- ・ もっと積極的に参加できればよかった…が、自分の知識の無さが、申し訳なくなるほどでした。ですが、たくさん勉強することができました。こんな学生でも楽しめたので、来年以降も開いて頂ければと思います。

- ・ 自分のことしか考えていない私の意見とは思えない、成長だと思えます。自分のことだけでなく、自分の周りのことを考えること、そして、行動することが、ものすごく、自分の未来を豊かにしてくれる予感がしています。井の中の蛙でした！と、気付かされてくれたことに感謝。
- ・ 本当に参加して良かったです。来年も絶対来たいと思っています。地方でなかなか来られないですが、メッセージを伝えたい。
- ・ 「ベースを広げるか否か」という話がありましたが、4年生の先輩方が広げた活躍の場や、時代の流れで求められるようになった役割を、スタンダードで学ぶということだと思うので、「4年生薬剤師の方よりもすごい！！」というのは、違うと思いました。薬剤師の役割が広いということを知っていることが、重要だと思いました。
- ・ 初めはしきいが高いと感じていたものの、意外と自分の意見を言っている自分にびっくりしました。これも、班員のコミュニケーション力の高さはもとより、タスクフォースの方が沢山考えて、準備、行動してくださったおかげだと実感しております。どうもありがとうございました。
- ・ 想像以上に有意義でした、ぜひ反映させていただきたいです。
- ・ 現在働いている先輩のお話を聞いたことがとても良かった。社会人に向けて希望がもてた。薬剤師という誇りを根底に、様々な現場で仕事をしていきたい。
- ・ 2日間、スタッフのみなさん、本当にありがとうございました。特にタスクフォースの方がいらっしやらなかったら、何事も円滑に進めることができなかつたと思います。スタッフがきちんとしてくれるから、参加している私達がとても集中して、討議できたと思います。本当にありがとうございました。
- ・ ブレイクタイムに、自分のグループ内で回せるくらいの8コくらいくらいの地元の特産、お菓子などを持ち寄って回したら、話題にもなり、楽しかったのではないかと（見聞も広がる）。ぜひ来年は、2期生を呼んでください。私達が、1期生の先輩のお話を聞いてとても勉強になったように、私達も、後輩に伝えられるよう成長したいです。
- ・ 少なくとも参加者の方には、今回行ったプレゼン等の模造紙や、エクセルのファイルを配って頂きたいです。
- ・ 今後もこの機会を続けて欲しいです。また、6年だけでなく、低学年でもあったら、考え方や、将来の方向性が変わっていたかもしれないと思いました。
- ・ このようなワークショップを、今後とも頻繁に続けていただきたいと思いました。各学年、または全学年で行うと、よりモチベーションが上がると思いました。
- ・ 今回、大学としても個人としても初めて参加して、大変いい経験になりました。今後、後輩などにも伝えたいと思います。
- ・ 今回、参加できて、とても有意義な時間を過ごせました。今後、自身の将来や、薬剤師としてのあり方について、もっと見つめて深く考えてみたいと思います。10年後も、この気持ちを持っていると思います。
- ・ 6年生だけでなく、実務実習直前である4年生の意見も聞きたい。
- ・ 参加させていただき、本当にありがとうございました。今回の経験をどう活かしていくかは、自分次第だと思うので、大学に戻ってから、未来につなげていきたいです。
- ・ 各プログラム（話し合い）が、次のプログラムにつなげられるような展開ができれば、良かったと



思う。各テーマが独立していた感じがあったので、話を最終発表に向けて、深めていくような話し合いができれば良かったと思う。

- ・ 今回の内容を、仮に大学に戻って発表する機会があったとして、この熱意は、学生の 1/5 にも伝わらないと思います。今回集まった人達は本当に熱心ですが、大学によっては、非常に多くの学生は、そもそもそのような向上心がないことが、一番深刻な問題のように感じています。

## 日本薬学会第2回全国学生ワークショップ実行委員会

- 石井伊都子 (千葉大学)  
入江徹美 (熊本大学)  
大野尚仁 (東京薬科大学)  
賀川義之 (静岡県立大学)  
亀井美和子 (日本大学)  
木内祐二 (昭和大学)  
河野武幸 (摂南大学)  
鈴木匡 (名古屋市立大学)  
高橋寛 (佐野薬局)  
徳山尚吾 (神戸学院大学)  
◎ 中村明弘 (昭和大学)  
橋詰勉 (京都薬科大学)  
長谷川洋一 (名城大学)  
平井みどり (神戸大学病院)  
平田收正 (大阪大学)

(◎ : 委員長)

発行 2013年2月

公益社団法人 日本薬学会

薬学教育委員会

日本薬学会第2回全国学生ワークショップ実行委員会